

科目名	現代文明とコミュニケーション		
担当教員名	阿部 史、川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質：

本科目は社会情報学科の専門科目として位置づけられる。

科目の概要：

しばしば、「政治・は出来上がりつつある法律であり、法律は出来上がった政治である」といわれるように、法律学と政治学は互いに密接な関係にある。そこで、この講義は、政治学・法学の入門編として、国の仕組み、くらしの仕組みを学びながら、現代文明とコミュニケーションのあり方を考察する。

科目の目的：

現代社会の仕組みをよりよく理解する。

内容

- 国際社会の仕組み 1 国連、国際社会の中での日本
- 国際社会の仕組み 2 アメリカ、ヨーロッパ、新興国、発展途上国
- 国際社会の仕組み 3 民主主義・非民主主義、戦争と平和、核と世界
- 日本の仕組み 1 議会制民主主義、三権分立
- 日本の仕組み 2 日本の課題-少子高齢化、社会保障、財政赤字、震災復興
- 日本の仕組み 3 戦後政治史、日本社会の変化、現在の政治
- 現代社会の仕組み 1 コミュニケーション革命、インターネット、電子化
- 現代社会の仕組み 2 資本主義、格差、金融危機
- 紛争解決の仕組み 1 裁判による紛争解決「司法権」の位置付け
- 紛争解決の仕組み 2 国民が司法に参加する仕組み
- 紛争解決の仕組み 3 法律家の種類と役割
- 紛争解決の仕組み 4 司法制度改革
- 市民社会と法 1 市民の司法アクセス上の課題・裁判以外の紛争解決方法
- 市民社会と法 2 紛争解決における法律の役割と課題
- 市民社会と法 3 情報化社会と法、総括

評価

授業態度・提出物および小テストの結果を総合評価する。

前半の担当者50%、後半の担当者50%の持ち分の合計で評価する。

100点満点中60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて適宜資料を配布する。

【推薦書】 ティム・ロリンズ「13デイズ」角川文庫

科目名	NGO・NPOとコミュニケーション		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

選択科目

市民が行う自由な社会貢献活動を促進する法律として特定非営利活動促進法が成立したのは1998年である。多様な生活問題の解決にあたって民間非営利団体(NPO・NGO)の貢献する範囲は広がっている。統計などによって見えている部分のごくわずかであるということから「氷山のようなセクターである」といわれた民間非営利領域、およびその主体である民間非営利団体について、さまざまな議論や実践とともに研究も深まりつつある。多様な非営利団体を対象に、現在の私たちの社会におけるその実態と可能性を検討する。講義だけでなく、受講生全体の参加による議論・検討を重視する。

民間非営利団体の現状をふまえて、社会における市民の役割を理解する。

内容

1	生活主体と公共私領域 - NGO・NPOの誕生
2	NPOと非営利革命
3	NPOセクターの国際比較
4	ミッションとプロフィット
5	わが国のNPOを取り巻く制度と環境
6	NPOの活動事例 - 教育・文化・スポーツの分野
7	NPOの活動事例 - 医療・福祉の分野
8	NPOの活動事例 - 地域振興・環境問題の分野
9	NPOの活動事例 - 人権・平和・国際協力の分野
10	NPOの活動事例 - NPOの支援を行なうNPO
11	NPOの多様性とその課題
12	NPOにおける寄付とボランティア
13	NPOのマネジメント
14	NPOの展開と市民社会の可能性
15	レポート報告と講評

評価

事例発表・討議への参加態度(3割)、期末レポート(8割)として採点し、60点以上を合格とする。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: NPO研究フォーラム『NPOが開く新世紀』清文社 335.8/N

山内直人編『NPOデータブック』有斐閣 335.8/Y

大畑裕嗣他『社会運動の社会学』有斐閣選書

目加田説子『行動する市民が世界を変えた』毎日新聞社

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

コース専門科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段(言語、非言語)が充分でないからなのか、それとも、考え方(文化)が違うからなのだろうか。授業では、コミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容

講義で論じるテーマは以下の通り。

1. 異文化コミュニケーション研究の歴史(1): 外なる異文化
2. 異文化コミュニケーション研究の歴史(2): 内なる異文化
3. コミュニケーション: 何を伝えるのか
4. コミュニケーション: どうやって伝えるか
5. 異文化: 文化とは何か
6. 非言語コミュニケーション(1): 動作
7. 非言語コミュニケーション(2): 外見
8. 言語によるコミュニケーション(1): 言語
9. 言語によるコミュニケーション(2): 思考
10. コミュニケーション・スタイル
11. 異文化理解
12. メディアと異文化
13. 国際社会における異文化コミュニケーション
14. 多文化世界: 異文化の融合と共生
15. まとめ

評価

レポート(50%)、試験(50%)で総合評価。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】池田理知子 『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房 2010年

【推薦書】鍋倉健悦 『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー 1997 年；石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/1

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

科目名	国際政治論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年生以上のコース専門科目として、国際的視野を養う。

21 世紀に入った国際社会はどのような問題に直面しているのだろうか。これまでの国際問題とは違う、新たな問題が発生しているのだろうか。この講義では、20 世紀後半の国際関係の流れを再考し、その上で、現在の国際社会の問題の特徴を探る。国際問題を、国際社会という舞台に現れる登場人物(主体)、話し合われる事柄、その背景の理解を通じて、多角的に捉えていく。

国際政治とは、自分から遠いところで、自分に関係なく動いているものではないことを学んでほしい。

内容

講義で取り上げる代表的なトピックは以下の通り。

1. 国際関係をみる視点：日本の役割
2. 20世紀の国際関係(1)：冷戦の始まり
3. 20世紀の国際関係(2)：冷戦の終結
4. 地域紛争(1)：歴史
5. 地域紛争(2)：現状
6. テロリズム
7. 南北問題(1)：格差
8. 南北問題(2)：貧困
9. 環境問題(1)；地球環境問題
10. 環境問題(2)：国際協力
11. 人権問題
12. 国際社会の協力関係(1)：グローバル化
13. 国際社会の協力関係(2)：リージョナリゼーション
14. 21世紀の国際社会と日本
15. まとめ

評価

レポート(50%)、試験(50%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】原彬久 『国際関係学講義(第4版)』有斐閣 2011年

【推薦書】渡邊啓貴編 『新版ヨーロッパ国際関係史』有斐閣アルマ 2008年

【参考図書】猪口孝 編 『国際関係リーディングズ』東洋書林 2004年

東大作 『平和構築 - アフガン、東ティモールの現場から』 岩波新書 2009年

科目名	国際協力論		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

国連など国際機関の成立の由来、活動の特徴や概要、並びに日本など先進国が開発途上国に対して行う国際協力の現状と課題について、理解を深めるための現代社会コースの専門科目。

科目の概要

インターネット、新聞記事、ビデオなどを通して、現状と課題を把握することを目的とする。年々重要性を増している国際NGOの活動の現状と課題も検討する。

国連、ユニセフ、ユネスコ、ILO、IOM など国際機関、専門機関の成立の経緯、歴史、活動概要などをビデオ、DVDなど視聴覚資料を使いながら理解する。さらに、政府のレベルやNGOとして活躍しているゲスト講師を招き、最新の状況について理解する。

学修目標

国際機関、国際協力について理解を進めるだけでなく、自分は何ができるか考え、行動ができることを目標とする。グローバル化の進展に伴い、国連など国際機関の活動が重要視されるようになった。世界銀行からの借款により東海道新幹線や黒部ダム建設をした日本も、急激な経済発展をして先進国の仲間入りをし、ODA の額では世界有数の国として成長した。しかし、近年の国家財政不安からDOAの額は毎年減少している。なぜ日本がODAを提供する必要があるかについて、学生たちが考える機会となって欲しい。さらに、就職試験における国際機関、国際関係などにも対応できる力をつける。

内容

1	国際協力とは何か(2国間、多国間)、低開発国/開発途上国/先進国の基準とは何か
2	国連の仕組み、国連の活動について資料の配布と説明
3	国連の活動 : 人権関係 人権宣言、人権委員会~人権理事会へ(ビデオ:人権宣言のできるまで)
4	国連の活動 : 安全保障理事会 PKO 安保理決議1325、世界銀行、ジニ係数と貧困度
5	ミレニアム開発目標 貧困撲滅、教育の普及、妊産婦死亡の減少、ジェンダー平等、HIVエイズ
6	専門機関における活動 ILO (ビデオ:児童労働)
7	国連関係機関における活動 IOM 人の移動、人身取引(ビデオ:IOM人身売買)
8	国連以外の国際機関ASEAN、APEC、OECDなどの活動 国際NGOの活動
9	日本政府のODAの状況、ODAのあり方
10	国際協力事業団(JICA)の活動、就職試験の国際協力関係常識問題
11	JICA(国際協力事業団)青年海外協力隊の活動(JICA派遣ゲスト講師)
12	NGOとは ビデオ『世界社会フォーラム2005』
13	国連の男女平等のための活動:女性差別撤廃条約、選択議定書、女性に対する暴力撤廃宣言など
14	まとめ
15	就職試験のための国際関係常識問題

評価

試験 (60%)、課題 (25%)、ワークシートの内容 (15%)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書

『政府開発援助 (ODA) 白書 2010』外務省 2010

『人間開発報告書 2010』国連開発計画 2011

佐藤寛、藤掛洋子編 『開発援助と人類学』明石書店 2011

科目名	現代社会生活動向分析（時事解説）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

メディアコミュニケーション学科専門科目「メディア社会論」と同時開講

情報を伝える「メディア」の発展が、私たち人間の「社会」をどう変えてきたかを考えます。例えば、今や女子大生なら持っていない人がいないであろう、ケータイ。この新たな情報伝達手段の登場で、「待ち合わせ」とか「約束の時間」という行為や考え方が変化してきたのは、皆さん自身が最もよく知ることでしょう。このように、新たな情報伝達手段の登場が私たちの行動パターンやひいては社会のあり方にまで影響を与えてきたことを歴史的に学んでいくことで、未来の社会の姿のヒントを得ることが狙いです。

内容

1	イントロダクション
2	「メディア・社会・論」って何？
3	「ことば」の誕生 「文字」の発明1
4	「ことば」の誕生 「文字」の発明2
5	「大量印刷」法の発達1
6	「大量印刷」法の発達2
7	「電気通信・電氣的記録機器」の発明1
8	「電気通信・電氣的記録機器」の発明2
9	「コンピュータ」の登場1
10	「コンピュータ」の登場2
11	インターネットの時代1
12	インターネットの時代2
13	現代の社会とメディアの課題
14	現代の社会とメディアの課題
15	まとめ

評価

逐次、小レポートを書いてもらいます（60％）。最後にテストをします（40％）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	現代社会生活動向分析（時事解説）		
担当教員名	大西 正行、川口 英俊、岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目では、ニュースを通してメディアへの理解や時事問題の見方を学ぶ。様々なメディアを理解しながらメディアの特質・影響力を学び、ニュースの見方を学びながら時事問題への理解を深める。同時にその時々々のニュースを取り上げ解説する。

現代のますます複雑化するマスメディアが報道する多量のニュースの中から現代社会で生活する上で真に必要な情報の取捨選択を行い得るメディア・リテラシーを身に付けることを目標とする。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

岡本卓ーテレビのニュース・報道番組と社会

- マスメディアと私たち（マスメディアと世論、マスメディアの影響力etc）
- テレビとインターネット（あなたはテレビ派？ネット派？、尖閣諸島沖衝突事件と映像のネット流出etc）
- テレビと政治（報道の自由と政治（家）の介入、政治家はテレビよりネットが好き？etc）
- テレビと戦争（ベトナム戦争の前と後の戦争報道、“ロボット戦争”とテレビ、テレビは戦争を防げるか/止められるかetc）
- まとめ

大西正行 ? 新聞とニュース-

- 新聞と一般読者（トップニュースは、どうして決まるか。「社会の監視」「特ダネ」「地域主義」の価値感は今...）
- 行政組織と新聞（捜査機関等を含む役所の側の論理、取材の現場と記者クラブ）
- 企業行動と新聞（資本の側の論理）
- 新聞と政治家の間（第4権力の核としての新聞と政治権力）
- 新聞の論調と社会の流れ（戦前との比較も交えた、社説やコラムの世界観）

川口英俊 ? インターネット・新しいメディアとニュース-

- メディア・リテラシー（ニュースの読み方・考え方、インターネットによるニュースの読み方）
- インターネットとニュース（インターネットがニュースに与えた影響 インターネットとテレビ・新聞の「衰退」、政治とニュースとインターネット）
- インターネットによる情報発信（インターネットによる情報発信の可能性と問題点）
- 新しいメディアとニュース（新しいコミュニケーションツール-ブログ・ツイッター、you tube・携帯・メール）
- まとめ

評価

担当者3名がレポート等によりそれぞれ評価をつけ、それを総合して（小テスト3.3割、レポート3.3割、授業を踏まえての提出物3.3割）成績を出す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮文庫

谷岡一郎「社会調査の『ウソ』」文春新書

科目名	時事解説（前編）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

メディアコミュニケーション学科専門科目「メディア社会論」と同時開講

情報を伝える「メディア」の発展が、私たち人間の「社会」をどう変えてきたかを考えます。例えば、今や女子大生なら持っていない人がいないであろう、ケータイ。この新たな情報伝達手段の登場で、「待ち合わせ」とか「約束の時間」という行為や考え方が変化してきたのは、皆さん自身が最もよく知ることでしょう。このように、新たな情報伝達手段の登場が私たちの行動パターンやひいては社会のあり方にまで影響を与えてきたことを歴史的に学んでいくことで、未来の社会の姿のヒントを得ることが狙いです。

内容

1	イントロダクション
2	「メディア・社会・論」って何？
3	「ことば」の誕生 「文字」の発明1
4	「ことば」の誕生 「文字」の発明2
5	「大量印刷」法の発達1
6	「大量印刷」法の発達2
7	「電気通信・電氣的記録機器」の発明1
8	「電気通信・電氣的記録機器」の発明2
9	「コンピュータ」の登場1
10	「コンピュータ」の登場2
11	インターネットの時代1
12	インターネットの時代2
13	現代の社会とメディアの課題
14	現代の社会とメディアの課題
15	まとめ

評価

逐次、小レポートを書いてもらいます（60%）。最後にテストをします（40%）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	時事解説（後編）		
担当教員名	大西 正行、川口 英俊、岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目では、ニュースを通してメディアへの理解や時事問題の見方を学ぶ。様々なメディアを理解しながらメディアの特質・影響力を学び、ニュースの見方を学びながら時事問題への理解を深める。同時にその時々々のニュースを取り上げ解説する。

現代のますます複雑化するマスメディアが報道する多量のニュースの中から現代社会で生活する上で真に必要な情報の取捨選択を行い得るメディア・リテラシーを身に付けることを目標とする。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

岡本卓ーテレビのニュース・報道番組と社会

- マスメディアと私たち（マスメディアと世論、マスメディアの影響力etc）
- テレビとインターネット（あなたはテレビ派？ネット派？、尖閣諸島沖衝突事件と映像のネット流出etc）
- テレビと政治（報道の自由と政治（家）の介入、政治家はテレビよりネットが好き？etc）
- テレビと戦争（ベトナム戦争の前と後の戦争報道、“ロボット戦争”とテレビ、テレビは戦争を防げるか/止められるかetc）
- まとめ

大西正行 ？ 新聞とニュース-

- 新聞と一般読者（トップニュースは、どうして決まるか。「社会の監視」「特ダネ」「地域主義」の価値感は今...）
- 行政組織と新聞（捜査機関等を含む役所の側の論理、取材の現場と記者クラブ）
- 企業行動と新聞（資本の側の論理）
- 新聞と政治家の間（第4権力の核としての新聞と政治権力）
- 新聞の論調と社会の流れ（戦前との比較も交えた、社説やコラムの世界観）

川口英俊 ？ インターネット・新しいメディアとニュース-

- メディア・リテラシー（ニュースの読み方・考え方、インターネットによるニュースの読み方）
- インターネットとニュース（インターネットがニュースに与えた影響 インターネットとテレビ・新聞の「衰退」、政治とニュースとインターネット）
- インターネットによる情報発信（インターネットによる情報発信の可能性と問題点）
- 新しいメディアとニュース（新しいコミュニケーションツール-ブログ・ツイッター、you tube・携帯・メール）
- まとめ

評価

担当者3名がレポート等によりそれぞれ評価をつけ、それを総合して（小テスト3.3割、レポート3.3割、授業を踏まえての提出物3.3割）成績を出す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮文庫

谷岡一郎「社会調査の『ウソ』」文春新書

科目名	オーラルコミュニケーション		
担当教員名	アリス スウェンソン		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is the improvement of the student's speaking and listening level. By improving one's English fluency, the chances of success in travel and work will improve.

内容

In this class students concentrate on listening and speaking. Role plays, short speeches, pronunciation drills, and communication gap exercises are utilized.

Week One to Three- Topics that are close to the students lives, both school and family will be discussed.

Week Four to Six- Expanding topics to discuss broader issues is the goal. Students will learn to give opinions, explanations, and ask questions.

Week Seven to Nine- Oral practice continues with speaking tests in groups, feedback from peers and teacher, and building vocabulary for a variety of topics.

Week Ten-fifteen - Students will continue to work on speaking with a variety of activities such as conducting surveys and giving summaries of short stories. The last few weeks will concentrate on speaking about new topics in small groups.

評価

Students are evaluated on participation (30%) and homework (30%), tests and quizzes (40%),

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

"Topic Talk" by David Martin, EFL Press

科目名	オーラルコミュニケーション		
担当教員名	アリス スウェンソン		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

The goal of this class is the improvement of the student's speaking and listening level. By improving one's English fluency, the chances of success in travel and work will improve.

内容

In this class students concentrate on listening and speaking. Role plays, short speeches, pronunciation drills, and communication gap exercises are utilized.

Week One to Three- Topics that are close to the students lives, both school and family will be discussed.

Week Four to Six- Expanding topics to discuss broader issues is the goal. Students will learn to give opinions, explanations, and ask questions.

Week Seven to Nine- Oral practice continues with speaking tests in groups, feedback from peers and teacher, and building vocabulary for a variety of topics.

Week Ten-fifteen - Students will continue to work on speaking with a variety of activities such as conducting surveys and giving summaries of short stories. The last few weeks will concentrate on speaking about new topics in small groups.

評価

Students are evaluated on participation (30%) and homework (30%), tests and quizzes (40%),

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

"Topic Talk" by David Martin, EFL Press

科目名	時事英語		
担当教員名	湊 和夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、新聞・放送の英語ニュースの理解力を高めることを目標とする。

この授業で使用するテキストは、米国で「英語を母国語としない人を対象」として発行されているNEWS FOR YOU 紙の記事をベースに作成されている。すなわち、それほど難解ではない。テキストの内容は、政治、経済、社会、科学など、多岐にわたる。

毎回の授業では、ほぼ全員の受講者に、朗読、翻訳、意見発表などをして頂く。

内容

1回目の授業では、時事英語に特有な語法や表現について講義する。

2回目から14回目までの授業では、テキストブックの次の各章の順を追って、各章を1回もしくは2回で終えるようにしながら講義を進める。

1. なぜガソリン価格は高騰しているのか
2. 日本では、一連の出来事が大災害につながった
3. 空港スキャナー、プライバシーについての懸念をあらわに
5. 若い未亡人、ハイチから双子の孤児を養子に
6. ながら族はしばしば効率の悪いことが明らかに
8. ウェブサイトが行方不明者と死者の照合を手助け
10. イギリス： 怠けすぎ、それとも働きすぎ？
12. 看護師は医師の役割を担うべき？
13. サンゴ礁が死ぬと地球規模の影響
14. 男性は結婚から得るもの多し、と報告書
15. コペルニクス、英雄として改葬
18. 公害について報道するジャーナリストは危険に直面、とメディア権利団体
19. ベルリンの壁は救うべきだった？ ベルリンつ子は反対

15回目の授業で、まとめを行う。

評価

口頭発表と小テスト(40点)、試験(60点)、計100点満点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

大月実・Lena Vidahl編著 News for You 2012/2013 Edition (やさしいメディア英語2012/2013年版)成美堂

科目名	時事英語		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターネットが普及した現在、情報の多くが英語でやりとりされています。

この授業では、英字新聞やそのホームページを読むための基本的な知識を学び、実際の記事を読む訓練をおこないます。また、適宜リスニングもおこないます。

辞書を片手に、やさしい英字新聞が読めるようになることが目標です。

内容

テキストは、アメリカ・ニューヨーク州で英語学習者用の新聞として出版されているNews for You紙から記事を選んでいきます。現代世界の様々な出来事や問題に対する知識、関心を深めながら読み進めていきます。授業では、毎週1つのトピックを読みます。

第1週：ガイダンス

第2週：Unit 1; The Euro: Still Strong After 10 Years

第3週：Unit 2: New Rules Require Truckers to Speak Better English

第4週：Unit 3: A Journey from the Streets to the Nobel Prize

第5週：Unit 4: Britain Warns Public to Prepare for Worldwide Food Crisis

第6週：Unit 5: U.S. Judges Study Science in Court

第7週：Unit 6: A Gold Medal for the Mna Who Saved a Billion Lives

第8週：Unit 7: Russia's President Threatens to Fire Officials Who Lack Computer Skills

第9週：Unit 8: Germany and Poland Fight over Manuscripts

第10週：Unit 9 :Saudi WomenReady to Take the Wheel

第11週：Unit 10: Richardson's Death Brings Awareness to Britain Injuries

第12週：Unit 11: Please Don't Lick the Tuna

第13週：unit 12:The Curious History Behind "Curious George"

第14週：unit 13:Death of Coral Reefs Would Have Global Effect

第15週：まとめ

評価

参加態度 50%

テスト 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『やさしいメディア英語 2012/2013年度版』

大月実著、成美堂、1900円

科目名	生活と統計		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 応用課題
- 15 復習・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

科目名	生活と統計		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 応用課題
- 15 復習・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

科目名	生活と統計		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 応用課題
- 15 復習・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

科目名	情報倫理		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人々の関心はマスコミ4媒体(新聞、雑誌、ラジオ、テレビ)から驚異的な普及でその影響力を伸ばすインターネットに移り、仕事や研究、私生活を取り巻くメディア環境は一変した。

しかし「情報」の重要度が高まっているにもかかわらず、個々の情報を見てみると、まさに玉石混交である。そうした現代を生きる我々は混沌とした情報社会の中で真に必要な情報を選び、間違いやトラブルからいかに自らを守るかが問われている。

授業では、メディア企業だけでなく、我々個人にも情報発信が可能になった現実を踏まえ、情報の発信から受信と(再)利用の過程で、企業も個人も守り、気をつけなければならないルール=情報倫理について考える。

内容

授業計画

- 1) 現代社会と情報
- 2) 情報社会の特徴と情報の信ぴょう性
- 3) 情報公開と個人情報の保護
- 4) 監視カメラと人権/プライバシー *番組視聴
- 5) インターネットと人権
- 6) 表現の自由と制約
- 7) 名誉毀損/プライバシーの侵害と保護
- 8) テレビ番組基準
- 9) 報道被害と救済
- 10) 報道番組とネット *番組視聴
- 11) 匿名発表&匿名報道と無責任社会
- 12) 少年犯罪&精神障害者事件と報道
- 13) 情報源の秘匿
- 14) 編集権と期待権
- 15) まとめ

評価

期末レポート60点+ミニレポート40点=100点 60点以上が合格

*ミニレポートとは、毎回の授業終了前の約10分で受講生の理解度を把握するために行う一種のリアクションペーパーである。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

関連資料は毎回の授業時に配布する。参考図書は随時紹介する。

科目名	社会調査技法（量的調査）		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目では、社会調査（量的調査）の分析に必要な統計解析手法を学ぶ。「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel ならびにSPSSを用いた演習を通して学習する。

アンケート調査の結果について、応用的なデータ分析ができる能力を身につけることを目標としている。

内容

1. アンケートデータの特徴
2. 二乗検定（1）適合度の検定
3. 二乗検定（2）独立性の検定
4. 二乗検定の応用問題・SPSSの利用法
5. 平均の差の検定について・t分布とF分布
6. 2群の母平均の差の検定（1）等分散を仮定したt検定
7. 2群の母平均の差の検定（2）分散が異なる場合を仮定したt検定
8. 対応のあるデータの差のt検定
9. t検定の応用問題
10. 分散分析（一元配置）
11. 分散分析（繰り返しのない二元配置）
12. 分散分析の応用問題
13. 総合問題（1）
14. 総合問題（2）
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出（30%）
2. 最終課題の達成度（70%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	社会調査技法（量的調査）		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目では、社会調査（量的調査）の分析に必要な統計解析手法を学ぶ。「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel ならびにSPSSを用いた演習を通して学習する。

アンケート調査の結果について、応用的なデータ分析ができる能力を身につけることを目標としている。

内容

1. アンケートデータの特徴
2. 二乗検定（1）適合度の検定
3. 二乗検定（2）独立性の検定
4. 二乗検定の応用問題・SPSSの利用法
5. 平均の差の検定について・t分布とF分布
6. 2群の母平均の差の検定（1）等分散を仮定したt検定
7. 2群の母平均の差の検定（2）分散が異なる場合を仮定したt検定
8. 対応のあるデータの差のt検定
9. t検定の応用問題
10. 分散分析（一元配置）
11. 分散分析（繰り返しのない二元配置）
12. 分散分析の応用問題
13. 総合問題（1）
14. 総合問題（2）
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出（30%）
2. 最終課題の達成度（70%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	社会調査技法（量的調査）		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目では、社会調査（量的調査）の分析に必要な統計解析手法を学ぶ。「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel ならびにSPSSを用いた演習を通して学習する。

アンケート調査の結果について、応用的なデータ分析ができる能力を身につけることを目標としている。

内容

1. アンケートデータの特徴
2. 二乗検定（1）適合度の検定
3. 二乗検定（2）独立性の検定
4. 二乗検定の応用問題・SPSSの利用法
5. 平均の差の検定について・t分布とF分布
6. 2群の母平均の差の検定（1）等分散を仮定したt検定
7. 2群の母平均の差の検定（2）分散が異なる場合を仮定したt検定
8. 対応のあるデータの差のt検定
9. t検定の応用問題
10. 分散分析（一元配置）
11. 分散分析（繰り返しのない二元配置）
12. 分散分析の応用問題
13. 総合問題（1）
14. 総合問題（2）
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出（30%）
2. 最終課題の達成度（70%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	社会調査技法（質的調査）		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり（自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計）、学期末には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施した結果をレポートにして提出する。

内容

1	はじめに（質的調査の基本的性格）
2	ドキュメント分析1：公的記録の分析（広報や新聞など）
3	ドキュメント分析2：私的記録の分析（日記・ブログ、手紙・電子掲示板など）
4	ドキュメント分析3：私的記録の分析（自分史の分析）
5	インタビュー調査1：インタビューの種類（構造化面接と非構造化面接）
6	インタビュー調査2：インタビュー調査の事例1（ライフヒストリー）
7	インタビュー調査3：インタビュー調査の事例2（フォーカス・グループ・インタビュー）
8	インタビュー調査4：インタビュー調査の設計
9	非参与観察1：非参与観察の事例（タウンウォッチング）
10	非参与観察2：非参与観察の設計（タウンウォッチングの計画）
11	参与観察1：参与観察の事例（ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』）
12	参与観察2：参与観察の技法（フィールドノーツの書き方）
13	参与観察3：参与観察の設計（イベント参加やボランティア体験など）
14	質的調査と倫理
15	総括

評価

授業時の課題提出（40%）と学期末のレポート（60%）で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。

科目名	社会調査技法（質的調査）		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり（自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計）、学期末には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施した結果をレポートにして提出する。

内容

1	はじめに（質的調査の基本的性格）
2	ドキュメント分析1：公的記録の分析（広報や新聞など）
3	ドキュメント分析2：私的記録の分析（日記・ブログ、手紙・電子掲示板など）
4	ドキュメント分析3：私的記録の分析（自分史の分析）
5	インタビュー調査1：インタビューの種類（構造化面接と非構造化面接）
6	インタビュー調査2：インタビュー調査の事例1（ライフヒストリー）
7	インタビュー調査3：インタビュー調査の事例2（フォーカス・グループ・インタビュー）
8	インタビュー調査4：インタビュー調査の設計
9	非参与観察1：非参与観察の事例（タウンウォッチング）
10	非参与観察2：非参与観察の設計（タウンウォッチングの計画）
11	参与観察1：参与観察の事例（ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』）
12	参与観察2：参与観察の技法（フィールドノーツの書き方）
13	参与観察3：参与観察の設計（イベント参加やボランティア体験など）
14	質的調査と倫理
15	総括

評価

授業時の課題提出（40%）と学期末のレポート（60%）で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

桜井 厚『インタビューの社会学』せりか書房、2002年。

W.I.トマス/F.ズナニエツキ『生活史の社会学』桜井 厚訳、御茶の水書房、1983年。

中野 卓『口述の生活史』御茶の水書房、1977年。

W.F.ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』寺谷弘士訳、垣内出版、1979年。

佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年。

科目名	社会情報処理演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

授業でのレポートなどの課題、3年次のゼミ等における発表、4年次の卒業研究に対応していくための基本的技術の習得を第一目標とするが、それだけにとどまらず与えられた情報をどう解釈し、どう加工していくか、どうまとめていくかといった応用問題に対応できる基礎を身につけることを目指したい。与えられたテーマを望まれているように加工する技術も必要だが、自分の問題意識に沿って必要な知識と技術を見つけ出し解決していく能力を身につけることを大目標としたい。

内容

以下の内容を基本とする。なるべくレポート作成や発表といった実践の中で学ぶことを目指す。

- ・基本的パソコン技術
- ・参考文献検索・収集技術
- ・レポートの書き方に関する基本的技術プラスアルファ
- ・レポートに取り込むための図表作成(エクセルによる)
- ・レジュメ作成 - 構成の作り方
- ・パワーポイントによる発表・プレゼンテーション技術

評価

課題(30%)、発表(30%)、平常点(40%)等を総合的に判断する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

学習技術研究会「知へのステップ 改訂版」くろしお出版
 佐藤望 他「アカデミック・スキルズ」慶応義塾大学出版会

科目名	社会情報処理演習		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会調査科目(必修)の 科目、1年次の情報処理演習で習得したパソコン操作技術の中でも、Access によるデータベース管理について、発展的に学習

科目の概要

ACCESSというリレーショナルデータベースの基礎を学ぶとともに、販売管理などを題材としてデータの構造を考え、Access を用いたデータベースの作成・管理・活用方法を学び、最後に自分でデータベースを作る。

学修目標

3,4年の卒業研究や、将来、職場や趣味で活用できるようにACCESSというリレーショナル・データベースの概念、構造、設計、作成、活用技術を、発展的に学習し、理論と技術を身につける。

内容

Excel でのデータベース管理を学んだあと、Access を使い簡単なデータベースを作成する。作成したデータベースでデータ管理システムの技術的な工夫について実際に確認しながら、実習と平行して講義を進める。

1	データベースとは
2	Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースについて
3	Access によるデータベースの作成演習(テーブルの作成)
4	Access によるデータベースの作成演習(複数テーブルの作成)
5	Access によるデータベースの作成演習(クエリ処理)
6	Access によるデータベースの作成演習(クエリ処理)
7	Access によるデータベースの作成演習(フォーム、レポートの作成)
8	Access の総合演習課題
9	リレーショナル代数(和演算、差演算、積演算、商演算)
10	リレーショナル代数(選択演算、射影演算、結合演算)
11	DBMS(正規化)
12	DBMS(整合性)
13	DBMS(排他制御)
14	DBMS(障害回復)
15	まとめ

評価

授業に対する意欲・関心・態度と授業中に出す演習課題(40点)と総合課題(30点)とテストまたはレポート(30点)の成績で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】よくわかるAccess2007基礎 FOM出版

科目名	社会情報処理演習（プレゼンテーション）		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

授業でのレポートなどの課題、3年次のゼミ等における発表、4年次の卒業研究に対応していくための基本的技術の習得を第一目標とするが、それだけにとどまらず与えられた情報をどう解釈し、どう加工していくか、どうまとめていくかといった応用問題に対応できる基礎を身につけることを目指したい。与えられたテーマを望まれているように加工する技術も必要だが、自分の問題意識に沿って必要な知識と技術を見つけ出し解決していく能力を身につけることを大目標としたい。

内容

以下の内容を基本とする。なるべくレポート作成や発表といった実践の中で学ぶことを目指す。

- ・基本的パソコン技術
- ・参考文献検索・収集技術
- ・レポートの書き方に関する基本的技術プラスアルファ
- ・レポートに取り込むための図表作成（エクセルによる）
- ・レジュメ作成 - 構成の作り方
- ・パワーポイントによる発表・プレゼンテーション技術

評価

課題（30%）、発表（30%）、平常点（40%）等を総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

学習技術研究会「知へのステップ 改訂版」くろしお出版
 佐藤望 他「アカデミック・スキルズ」慶応義塾大学出版会

科目名	社会情報処理演習 (データベース)		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会調査科目(必修)の 科目、1年次の情報処理演習で習得したパソコン操作技術の中でも、Access によるデータベース管理について、発展的に学習

科目の概要

ACCESSというリレーショナルデータベースの基礎を学ぶとともに、販売管理などを題材としてデータの構造を考え、Access を用いたデータベースの作成・管理・活用方法を学び、最後に自分でデータベースを作る。

学修目標

3,4年の卒業研究や、将来、職場や趣味で活用できるようにACCESSというリレーショナル・データベースの概念、構造、設計、作成、活用技術を、発展的に学習し、理論と技術を身につける。

内容

Excel でのデータベース管理を学んだあと、Access を使い簡単なデータベースを作成する。作成したデータベースでデータ管理システムの技術的な工夫について実際に確認しながら、実習と平行して講義を進める。

1	データベースとは
2	Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースについて
3	Access によるデータベースの作成演習(テーブルの作成)
4	Access によるデータベースの作成演習(複数テーブルの作成)
5	Access によるデータベースの作成演習(クエリ処理)
6	Access によるデータベースの作成演習(クエリ処理)
7	Access によるデータベースの作成演習(フォーム、レポートの作成)
8	Access の総合演習課題
9	リレーショナル代数(和演算、差演算、積演算、商演算)
10	リレーショナル代数(選択演算、射影演算、結合演算)
11	DBMS(正規化)
12	DBMS(整合性)
13	DBMS(排他制御)
14	DBMS(障害回復)
15	まとめ

評価

授業に対する意欲・関心・態度と授業中に出す演習課題(40点)と総合課題(30点)とテストまたはレポート(30点)の成績で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】よくわかるAccess2007基礎 FOM出版

科目名	地域社会と住民参加		
担当教員名	内野 伸之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人びとの暮らしは各個人の意思と責任で営まれるが私的な立場では対応できないこともあり、そこを補うのが行政の役割であるから、行政に民意を反映させることは民主社会の基本で、この科目はそのことを中心に考える。

わが国の行政は国と地方自治体の二元的構造になっている。特に市民生活の身近な問題に深くかかわる地方自治体の行政活動は重要で、住民の意向を効果的に反映させなければならない。こうした点に積極的に取り組んでいる各地域の自治体とその住民の主体的なかかわり方などにも着目しつつ、自分たちのことは自分で決めるという住民自治の原点について考察する。

学修目標としては、(1)行政の仕組みを知り、国と自治体の役割分担を理解する、(2)住民の意向を行政に反映させる制度の類型を理解する、(3)行政活動の根拠となる法律と条例の関係を理解する。

内容

1	市民社会と行政の役割
2	行政はどのような方法で行われるか(1)
3	同 上 (2)
4	法律と条例の関係
5	地域住民の権利と義務
6	直接請求制度と住民投票制度
7	環境保全と自治体の役割
8	自治体の開発規制の方法 条例、協定、要綱
9	行政上の利害の調整(1)
10	同 上 (2)
11	消費者問題への自治体の関わり
12	商業広告と規制立法
13	情報公開制度と住民の知る権利
14	地域住民としての外国人との共生
15	まとめ

評価

前半終了時の小レポート(20%)と最終レポート(80%)で評価、
60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず
況に合わせて適宜紹介

【推薦書】授業の状

科目名	消費者と法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

現代社会演習科目のなかの、選択必修科目である。

科目の概要

私たちは、通信販売で洋服を買う、映画を見る、旅行会社でツアーに申し込む、電車にのるといったあらゆる日常生活の場面で私たちは誰もが「消費者」として生活している。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのである。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況の下、大量生産・大量販売といった機能が事業者により一方的に担われている。そして、消費者と事業者には情報力・経済力等の格差が存在する。そのため、様々な消費者トラブルが発生する可能性が常にある。そこで、消費者トラブルの発生しやすい場面や現代的な課題を取り扱い、紛争解決の仕組みを検証する。

科目の目標

日常の消費生活において消費者を事業者から守る法律とその意義、各種悪徳商法の対策と法、トラブル発生後の消費者救済の仕組みについて学ぶ。また、賢い消費者としての必要な知識を身につけ、消費者トラブルと法の機能と限界について説明できるようにする。

内容

1	【総論】消費者法 ガイダンス、消費者と事業者、民法
2	【総論】消費者契約法 悪徳商法と消費者
3	【総論】特定商取引法 訪問販売、クーリング・オフ
4	【各論】高齢者・未成年者の法律問題
5	【各論】金融機関と消費者問題
6	【各論】信用取引と消費者問題
7	【各論】破産・倒産と消費者
8	【各論】マルチ商法・ネズミ講
9	【各論】不動産と消費者問題(前半)
10	【各論】不動産と消費者問題(後半)
11	【各論】情報化社会と消費者問題
12	【紛争解決と消費者】裁判所と消費者、裁判所以外の窓口(ADR)と消費者
13	【紛争解決と消費者】行政と消費者
14	【紛争解決と消費者】教育と消費者
15	まとめ

評価

提出物・授業態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価する。

100点満点中60点が単位取得の下限となる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

科目名	デザインとコーディネート		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の私たちは、多種多様なデザインを施された「空間」の中で生活している。

もし、自分で実際にデザインの手法や技術を体得し表現することができるようになれば、インテリアをはじめとするデザインされた「空間」は単に眺め利用するだけのものにとどまらず、創造する対象として、より身近な存在になってくる。

デザインは、これからの社会生活における自己主張のひとつの表現のとしても重要である。

本演習は、インテリアデザインに題材を求めたものが中心になる。主に、平面と立体、室内の色彩計画等の基礎的な演習を通じて、実践的な技術の体得と豊かな空間認識、造形感覚の体得を目指すものである。

但し、使用する機材があるため、人数に制限あり。

内容

1	インテリアデザインについて
2	100年前の暮らしと現代の暮らし
3	快適な現代生活と家庭電化製品
4	インテリアにおける色彩の役割
5	色彩の基本とシステム
6	色彩の調和理論
7	インテリアにおける素材の役割
8	インテリア素材の体験
9	インテリア素材の収集整理
10	インテリアデザインにおける図面の役割
11	図面のトレース1(基本事項)
12	図面のトレース2(平面図)
13	図面のトレース3(立面図)
14	図面のトレース4(断面図)
15	「終の棲家」の計画

評価

授業に対する意欲・関心・態度30点、及び随時の課題やレポートによる評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の中で、適時参考文献を紹介する。

科目名	シニアカルチャー研究		
担当教員名	河合 和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

我が国の平均寿命は、男性79歳、女性86歳となり、まさに人生80年時代の到来を示した。実際、65歳、70歳を高齢者と呼ぶには抵抗がある。その年代には、その年代にふさわしいイキイキとしたカルチャーが息づいている。そしてそこには、新しいビジネスの展開が約束されている。

「シニアカルチャー」の「シニアとは、先輩、上級者、年長者を意味する。一方「カルチャー」とは、ラテン語の「耕す」が語源で、和訳は「文化」となる。「耕す」とは植物を育てるための準備を言い、「文化」とは、「自然にあるもの」に、人の手を加えることによって「新しく創り出されたもの」全てを言う。すなわち「カルチャー」とは、新しいものを創り出すための準備ということになる。

では、新しいものを創り出すのは何のためなのだろうか？ 新しい料理、新しいファッションや音楽、新しい文学等々を創り出すのは何のためだろうか？ その問いに対する一つのこたえが、「新しいビジネスとの出会い」ということになる。

内容

- (1) 「シニアとは何か」を考える
- (2) 「カルチャーとは何か」を考える
- (3) 「シニアカルチャーとは何か」を考える
- (4) 「ジェロントロジー」という学問を学ぶ
- (5) 「シニアカルチャー」とジェロントロジー
- (6) 「シニアビジネス」とは何か
- (7) 「シニアの社会参加」とは何か
- (8) 「自己実現を目指すシニア」とは
- (9) 「シニアビジネス」を考える
- (10) 「趣味」を考える
- (11) 「ボランティア活動」について考える
- (12) 「シニアカルチャーとジェロントロジー」を再び考える
- (13) 「いつまでも生き生きと」自分らしく生きるには
- (14) まとめ その1
- (15) まとめ その2

評価

平常点40点、レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「定年後を楽しむ仕事の本」日本経済新聞社

科目名	フィールドスタディ「少子高齢社会」		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

確実にやってくる少子高齢化社会であるが、家族の介護などを除いては私たちがそれを実感する機会はなかなかない。フィールドスタディでは社会における少子高齢化問題の最前線に身を置くことにより「知識」+「実感」を得ること、そしてその実感を通じてさらに新たな「知識」を習得する事をねらいとする。

フィールドスタディ履修者はフィールドスタディ科目「少子高齢化と政治」（前期）を履修する。そこで少子高齢化、フィールドスタディに関する基礎知識を得た上で、フィールドスタディに参加する。また、「少子高齢時代の社会保障」（後期）を履修する。これらは1セットとなっており、フィールドスタディ履修者は前期・後期のフィールドスタディ関連科目を履修・単位修得しなければならない。

内容

少子高齢化の現場を訪問してお話を伺ったり、ボランティアを行う。事前に訪問先に関連するレポート等の課題提出、訪問後にフィールドスタディ報告書提出する。

1年間の最後に報告会を行う。

過去の例としては

- ・行政などの少子化対策を担当している部署で対策、問題点などについてのお話を伺う
- ・地域住民に介護サービスを提供する介護NPOのお話を伺う
- ・地域の子育て支援NPOのお話を伺う
- ・特別養護老人ホームなどでのボランティア
- ・保育園を訪問し見学とお話を伺う

現在のところ、特別養護老人ホームでのボランティアは毎年行っている。

評価

フィールドスタディへの参加（40%）、フィールドスタディ報告書（40%）、報告会発表（20%）などを総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

『平成23年版 厚生労働白書』

中島さおり「なぜフランスでは子どもが増えるのか」講談社現代新書

結城康博「介護」岩波新書

科目名	少子高齢時代の社会保障		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

少子高齢社会・人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差(ジェンダー)が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。学修の目標は、講義内容を自らの生き方と関連付けて理解し、社会保障・社会福祉の制度リテラシーの基本とすること。

内容

1	少子高齢時代の持続可能な社会のビジョンとは
2	男女共同参画に関する政策・制度の変化とその影響
3	社会保障・福祉サービスに関する政策・制度の変化とその影響
4	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
5	児童の環境と出産・育児支援
6	母子・父子家庭の抱える問題
7	高齢者の自立と介護問題
8	障害者(児)の自立支援に関する問題
9	新たな貧困問題とホームレス
10	在日外国人の生活問題
11	売買春・セクハラ・DVの解決
12	福祉の仕事と教育
13	ボランティア・市民活動・NPOの役割
14	福祉を創りだした女性たち
15	レポートの報告と講評

評価

意見の発表・討議への参加(20点)、期末レポート(80点)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

科目名	少子高齢化と政治		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の社会保障制度はいろいろな問題を突きつけられている。日本は戦後、社会保障を充実させてきたが、「私たちの頃には年金はもらえないのではないか?」「日本の介護に関する社会保障は不十分なのでは?」などといった不安を持つ人が増えている。そのような中で、少子高齢化は進行し、様々な問題を深刻化させている。これらの問題に対し政治は適切な対策を取ることができるのだろうか。その対策、課題、政治上の問題などを考える。

内容

- ・少子高齢化とは - 定義、データ、要因
- ・社会保障制度の問題点 - 年金問題、公的介護保険
- ・少子高齢化への新しい取り組み
- 地域コミュニティ主体の介護ケアセンター、介護NPO、外国人労働者の介護分野での活用
- ・少子高齢化問題の政治的側面 - 若者と高齢者の利害衝突、財政危機と福祉の負担
- ・少子高齢化の周辺 - ニート、フリーター、若年失業者、ワーキング・プア、格差社会
- ・少子高齢化対策 - 現行の対策、外国の対策

この科目はフィールドスタディ「少子高齢化社会」関連科目であり、フィールドスタディの基礎知識修得、準備などもこの授業で行われる。フィールドスタディ「少子高齢化社会」履修者は必ず履修する事。

評価

課題などの日常点(70%)、平常点(30%)で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中にプリント等を配布する。

【推薦書】

『平成23年版子ども・子育て白書』

『平成23年版高齢社会白書』

山田昌弘「少子社会日本」岩波新書

科目名	グローバル化と生活		
担当教員名	鴨澤 小織		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1.科目の概要

現代社会を突き動かしている動力を、身近なモノ、ヒト、文化などから読み解くことで「グローバル化」とは何かを理解する。さらに、グローバル化によって、人間の生活に何が起きているのか、その光と影の両面を探ってみる。グループ発表、ゲスト講師の講義など、参加型の授業形式を行う。

2.学修目標

日常生活が世界にどう繋がっているのか、グローバル化する社会でどう生きるかを考える力を高める。

内容

1	グローバル化と何か 背景と意味
2	グローバル化の歴史
3	グローバル化する社会の「モノ」100円ショップからフェアトレード
4	グローバル化する社会の「食糧」輸入食材とフードマイレージ
5	グローバル化する社会の「水」水紛争とは何か
6	グローバル化する社会の「文化」本、ファッション、音楽から世界を見る
7	グローバル化する社会の「企業と組織」多国籍企業と国際協力組織
8	グローバル化する社会の「労働1」国境を超える女性労働者
9	グローバル化する社会の「労働2」日本の移民労働者
10	グローバル化する社会の「人間の交流」多文化共生
11	グローバル化する社会の「人の交流：光と影」国際結婚、人身売買
12	グローバル化の諸問題：格差と貧困
13	グローバル化の諸問題：不平等と社会正義
14	グローバル化を生きるということ 誰が豊かになったのか
15	まとめ

評価

試験(50%)、課題レポート(30%)、授業への参加度(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介する

科目名	フィールドスタディ「男女共同参画社会」		
担当教員名	大友 由紀子、亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

現代社会コース、フィールドスタディ（体験型演習）の選択必修科目である。

フィールドスタディは実際の社会の動きを理解するために、学外の様々な場に出かけ、現状をとらえ考えることを基本とする。

女性も男性も共に、社会で活躍する重要なメンバーである。自分らしいライフスタイルを求めて、現代の女性たちは、仕事や家庭生活に様々なチャレンジをはじめている。また、重要な社会の一員として、多様な領域で活躍している。そして、男性も生活・育児参加が可能なように、企業も様々な生活支援をはじめている。社会のそうした動きを、企業におけるワークライフバランスへの取り組み、市民グループによるイベント、女性起業家の実例を通じて学び、自分の未来像を探る。

内容

前年度までの実施内容は下記のとおりである。平成24年度については、男女共同参画に関する開催イベントに応じて対応する。

- 1.男女共同参画関連施設見学
女性就業支援センター「働く女性のあゆみ展示」見学
- 2.子育て支援・父親に育児参加・イクメンプロジェクト
さんきゅーパパプロジェクト講演会に参加
主催：NPO法人ファザーリング・ジャパン
- 3.自治体と民間企業における男女共同参画への取組を訪問
生活共同組合さいたまコープの子育て支援
埼玉県の子育て応援宣言企業
- 4.国立女性教育会館「研究と実践の交流推進フォーラム」
ワークショップに参加

評価

課題レポート50点、フィールドでの参加態度30点、発表報告20点、合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

内閣府「男女共同参画白書」など、随時紹介する。

関連資料は配布する。

科目名	ライフコースと生活設計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

家族という小集団は、男女が結婚することで形成され、子どもの出生と成長によって拡大します。しかし、子どもが成人して自身の家族を形成するにしたがって縮小し、やがてはもとの夫婦二人になるという生活周期をもっています。家族にはこうした周期現象がみられることから、より長いスパンでの生活設計という考えが生まれました。ところが、個人の生き方が多様化するなかで、家族の生活周期と個人のライフコースとはどのように交錯しているのか、時代や世代によってどう変化したのか、その考察が必要になってきました。本科目では、女性の自立とライフコースの選択や、格差社会の進展にともなうライフコースの移行の遅れといった今日的な課題を分析的に論じるための基礎力を養います。

内容

1	発達アプローチ
2	家族周期の定義と発見者
3	家族周期の段階
4	家族周期と発達課題
5	家族周期の世代変化
6	家族周期論の応用
7	家族周期論の限界
8	ライフコースの発想
9	ライフコースの捉え方
10	ライフコース研究の古典1：エルダー『大恐慌の子どもたち』
11	ライフコース研究の古典2：ブラス『日本人の生き方』
12	女性のライフコース1
13	女性のライフコース2
14	ライフコースと世代
15	総括

評価

授業時の課題提出(40%)と学期末のペーパーテスト(60%)で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

G・H・Jr.・エルダー、本田時雄他『大恐慌の子どもたち』明石書店、1986。

D・W・ブラス、井上俊・杉野目康子訳『日本人の生き方』岩波書店、1985。

岩上 真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣、2003年。

青木 幸弘、女性のライフコース研究会編『ライフコース・マーケティング』日本経済新聞社、2008。

科目名	政策決定とジェンダー		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 現代社会コース フィールドスタディ「男女共同参画」の必修科目

2 男女共同参画社会づくりに向けて社会の政策がどのようにつくられ、それが実行されているか、地域、県、国、国際レベルでとらえ、日本の状況、世界の状況を知る。また演習とも関連させて、実際の事業がどのように展開しているかとらえる。

内容

1回 社会のルールは誰がつくったか

2 - 4回 女性の政治参画・参政権獲得の歴史

3 - 5回 1970年代以降 国際女性年の動向
国連女子差別撤廃条約の成立とその内容

7 - 9回 日本の制度改革とそれによる変化
男女雇用機会均等法の成立と法改正
国籍法改正、育児休業法、DV防止法

10 - 13回 家族・子育て支援関連の動き

14回 地域の女性センター、グループ・NPO活動
が動かしたこと

15回 女性の参画はどのように進んだか

評価

課題提出レポート60点、授業への参加度30点、平常点10点で合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時にテーマごとに紹介する。

科目名	民法の基礎		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーション学科現代社会コースの学科専門科目として位置付けられている。

科目の概要

民法は個人の衣食住にかかわる基本的なルールであり、「市民の法」「市民の権利・義務」を理解する上で不可欠かつ最も重要な法律である。ビジネス関係の法律、消費者保護の法律、家族関係の法律など各種の法律は民法を基礎としている。この民法の基礎的知識の習得と、法的思考力の身につけることを目的とする。民法には、契約や不法行為を取り扱う債権法のほか、物権・担保物権、親族法・相続法が含まれるが、この科目ではとりわけ、家を借りる、洋服を買う、誕生日プレゼントをするといった身近な行為に関係の深い民法の債権法を中心に取扱う。

科目の目的

身近な「契約」という行為がどのような法的な意味内容をもつものかを中心に学び、民法・債権法の基本的な理解を図ることを目的とする。

内容

1	債権法のガイダンス及び契約の成立
2	契約の効力： 同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約
3	契約の解除： 解除の要件・効果、消費者保護とクーリングオフ
4	契約各論(1)： 贈与契約 - 意義・成立・効力・特種の贈与
5	契約各論(2)： 売買契約 - 意義・成立・効力
6	契約各論(3)： 売買契約 - 買戻しについて
7	契約各論(4)： 交換・消費貸借・使用貸借
8	契約各論(5)： 賃貸借契約の意義・期間・効力
9	契約各論(6)： 雇用・委任・その他の典型契約
10	契約以外の債権発生原因(1)： 事務管理・不当利得
11	契約以外の債権発生原因(2)： 不法行為
12	債権の効力： 強制執行・債務不履行・損害賠償・受領遅滞
13	多数当事者の債権関係： 連帯債務・保証債務
14	債権の消滅： 弁済・代物弁済・相殺他
15	総括

評価

提出物・受講態度(40点)、ペーパーテスト(60点)を、総合して評価します。100点満点中60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『スタートライン債権法』[第5版] 池田真朗（日本評論社）

【参考書】『デイリー六法』（三省堂） その他の六法でも可

科目名	生活と情報経済		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活に関わる様々情報社会について学習する。

科目の概要

インターネット上での様々な経済取引が拡大している。そこで、本講義では、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げることとする。インターネットの仕組みや歴史からスタートさせ、インフラ系の事業からインターネット上のショッピング、そして企業間取引までの問題を幅広く扱う。また、インターネットを巡る諸問題についても扱う。

学修目標

インターネットに関わるビジネスモデルについて理解する。

内容

1. インターネットの歴史と仕組み
2. 情報通信産業の規制緩和
3. 認証システムと暗号化
4. ユビキタス社会
5. 6. SNSと動画配信
7. 8. 検索サイト
9. インターネットのショッピングサイト
10. 情報公開とインターネット
11. インターネットと政府の政策
12. 通信と放送の融合
13. 携帯電話産業とインターネット
14. コンテンツ産業
15. まとめ

評価

毎回の課題(30%)、最終のレポート(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	生活経済		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義はFP技能士3級合格を目指しながら、個人の公的年金保険制度や税制、金融資産運用について学習する。

科目の概要

FP技能士3級のカリキュラムに沿って学習しながら、広く個人がかかわる金融全体についての知識習得を図る。

学修目標

FP技能士3級に合格できる学力の養成を図る。

内容

1	イントロダクション
2	ライフプランニングと資金計画1
3	ライフプランニングと資金計画2
4	生命保険
5	損害保険
6	金融資産運用1
7	金融資産運用2
8	金融資産運用3
9	税制のしくみ1
10	税制のしくみ2
11	不動産取引1
12	不動産取引2
13	相続と事業継承1
14	相続と事業継承2
15	まとめ

評価

毎回の確認テスト(40%)と学期末テスト(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: なし。

推薦書: 授業時に指示する。

科目名	生活と議会政治		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

以下を身につけることをねらいとする。

1.政治過程に関する知識を身につける

私達の将来を決める政治的決定や、決定そのものを決める決定(ルール)、さまざまな状況、世界とのつながり、人のかかわりから決定が生まれてくる。こうした決定に関わるすべてを政治過程と呼び、選挙などを通してこの決定に関わる私たちはその知識を身につける必要がある。

2.ものの見方を学ぶ

知識を覚えるだけでは充分でない。バラバラの知識を覚えるだけでなくそれをどう見るかという「ものの見方」が必要となってくる。

3.政治についてデータ・論理に基づいた議論ができるようにする

どの「ものの見方」が正しいかを考えるためには、裏打ちする数字や事実などのデータ、他のものの見方との比較による一つの「論」を作る必要がある。

内容

- 1 ガイダンス
- 2 政治制度 - 議院内閣制
- 3 立法過程 - 予算と法律
- 4 立法過程 - 政策決定過程
- 5 立法過程 - ねじれ国会
- 6 政策決定システム - 議院内閣制
- 7 政策決定システム - 連立政権
- 8 前半まとめ
- 9 財政赤字と諸問題 - 福祉国家論と小さな政府
- 10 財政赤字と諸問題 - 財政危機と社会保障
- 11 現代日本政治の諸問題 - 2009年衆議院選挙と政権交代、自民・公明党政権の降板
- 12 現代日本政治の諸問題 - 民主党政権の「迷走」
- 13 現代日本行政の諸問題 - 震災復興と政治行政
- 14 現代日本行政の諸問題 - 政治家と官僚、「政治主導」とは?
- 15 後半まとめ

評価

小試験2回など(70%)、平常点(30%)の総合評価による

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

堀江湛 『政治学・行政学の基礎知識 第2 版』一藝社

岩井奉信 『立法過程』東京大学出版会

科目名	生活と行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

行政の基礎的知識と行政がどのような役割を果たしているか、どうあるべきかなどを探る。制度だけを見るのではなく時の内閣の動きなどとあわせ、今の時代をとらえたい。ニュースなどで見る時事問題のキーワードが理解できるよう取り上げ、授業内容も重要な時事問題に対応したものに再構成したい。ビデオも取り入れていく。

内容

- 1 ガイダンス
- 2 行政とは何か - 行政・司法・立法、公(政府)と私(民間)
- 3 行政の制度 - 省庁・自治体、法律・条例・政令・行政指導
- 4 予算形成過程 - 官僚と予算
- 5 予算形成過程 - 日本の予算
- 6 日本の財政・税制 - 赤字財政、消費税増税問題
- 7 前半まとめ
- 8 地方自治 - 地方分権、地方財政、三位一体の改革
- 9 少子高齢化への対応 - 子育て支援、社会福祉、年金問題
- 10 行政改革 - 公務員制度改革、規制緩和
- 11 民主党政権の諸政策と行政-子ども手当、農家個別所得補償
- 12 世界の行政 - アメリカの大統領制、イギリスの行政、発展途上国の行政
- 13 環境問題 - 地球温暖化対策、日本の温室効果ガス削減目標25%、環境税
- 14 雇用問題-景気と雇用、雇用行政と非正規労働
- 15 後半まとめ

評価

小試験(70%)、平常点等(30%)の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

- 堀江湛「政治学・行政学の基礎知識 第2版」一藝社 311/S
西尾勝「行政学」有斐閣 317.1/N
古賀茂明「日本中枢の崩壊」講談社

科目名	生活と食文化		
担当教員名	沢野 勉		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

世界各地には、さまざまな食べものがあり、それぞれ食習慣も異なっている。本講では食を文化の視点で捉えて、各地の食べもの、食習慣、食作法などを比較・考察する。食生活は気候・風土、生産条件、経済などの影響を受けるのは当然だが、これは同時に、その地域の人びとの自然観、宗教、文学や芸術の世界とも深く結びついている。食と人間と社会の関係を広い視野でみつめて食の課題を考えていくのが本講のねらいである。1. を第1週、2. を第2～3週、3. を第4～6週、4. を第7～8週、5. を第9～10週、6. を第11週、7. を第12～13週、第14週と第15週は、まとめとレポート発表とする。

内容

1. 食文化人類学と学習の意義；文化と文明 / culture、agriculture、viticulture / 文化人類学の諸分野と食文化人類学の位置づけ
2. 風土と食物；アジアモンスーン地帯の特性 / 和辻哲郎『風土』の問題提起 / 「湿」の文化と「乾」の文化 / わび・さびの自然観 / 「水に流す」と「湯水のように」 / 生在蘇州、住在杭州、衣在上海、食在広州、死在柳州 / ベトナムのフランスパン - 植民地支配と食
3. 食の思想と肉・魚；森の民と豚 - ドイツでのヴルストの発達 / グリム童話にみる食 / 羊の家畜化と遊牧民の生活 / 日本人と魚食 / 宗教と食物禁忌 / イスラム教の豚とヒンズー教の牛 / 仏教と食
4. 日本人と米；宮澤賢治『雨ニモマケズ』に見る米 / 粉食と粉食と食の規制 / しゃもじ権と女性の地位 / 麹文化の発展と微生物工業
5. 日本における東西の食文化；サケ圏とブリ圏 / 食塩摂取の地域差 / 土用のうなぎと牛肉 / ラーメンのだしの地域差 / 丸餅と切餅 / 納豆と豆腐
6. 食の道具と食作法；箸食と手食 / パスタとフォーク / 日本の食卓での匙の欠落 / 食器の個用と共用 / 箱膳の知恵 / 食卓でのDIY
7. 食のことばと表現；食べものの雅称と忌みことば / ことわざにみる食生活の知恵 / ネーミング考

評価

レポートおよび授業に対する参加意欲、関心、態度により評価。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストは使用せず、主としてノートによる。参考書は随時紹介する。関係用語のプリント配布。

科目名	ユニバーサルデザイン		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする福祉機器論よりも、対象を情報機器に分野を絞った科目になる。また、心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。本科目では、特にマニュアルを取り上げ、有効なマニュアルの条件について考察したい。

学修目標 わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。

内容

1	オリエンテーション
2	人間の心理過程と情報機器の情報処理(1) 情報の部分性
3	人間の心理過程と情報機器の情報処理(2) 言語
4	人間の心理過程と情報機器の情報処理(3) 記憶
5	人間の心理過程と情報機器の情報処理(4) 情報検索
6	人間の心理過程と情報機器の情報処理(5) 視覚
7	人間の心理過程と情報機器の情報処理(6) 聴覚
8	人間の心理過程と情報機器の情報処理(7) 触覚
9	情報機器を使うことの難しさ(1) ヒューマンエラー
10	情報機器を使うことの難しさ(2) ユーザが自分の責任にしがちである現状
11	情報機器を使うことの難しさ(3) メニュー、アイコン、専門用語
12	情報機器を使うことの難しさ(4) 学習の停滞
13	情報機器を使うことの難しさ(5) プロダクションパラドックス
14	マウスやキーボードの使い方を説明する、実際のマニュアル作成をする
15	まとめ

評価

毎回提出してもらってレポート、150点満点(15回X10点満点)で、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	地球とエコシステム		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

コース専門科目として、地球環境問題の様々な側面について考える。

地球環境問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作り直すという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム(生態系)、という点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な地球環境保護活動について検討する。さらに、エコシステムに注目する行動の基礎となった環境倫理学の視点や、ディープ・エコロジーといった思想を紹介し、地球の生態系を重視する環境保護政策のあり方について考えてみたい。

環境問題の多様性を理解し、「環境学」の基礎を学ぶ。

環境問題を広く理解するためには、FS 授業科目「生活環境と経済開発」も履修することが望ましい。

内容

講義で扱うテーマは下記のとおり。

1. 地球環境問題をどう捉えるか
2. 環境を考える4つの視点(1): 市場優先派と制度重視派
3. 環境を考える4つの視点(2): 生態系優先派と緑の社会正義派
4. 環境保護対策の考え方
5. 国際協力体制の始まり
6. 国際協力体制の発展
7. 環境問題における国際対立
8. 環境問題と経済格差
9. 環境問題とジェンダー
10. 環境問題と民主主義
11. 環境NGO
12. 環境倫理学
13. 生態系を守る環境保護政策
14. 環境学への視座
15. まとめ

評価

レポート(60%)、試験(40%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関礼子他 『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会 『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年；東京商工会議所編 『eco検
定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003年

科目名	生活とボランティア活動		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を基本としてとらえる。他の科目として「市民活動論」と関連性がある。講義は、ボランティアに関する知識と推進するための技術としてコーディネーション力を、具体的実践事例を交えながら理解することを内容とする。学修目標は、1. ボランティアについて理解する。2. ボランティアコーディネーションについて理解する。3. ボランティアコーディネーターについて理解する。

内容

1	はじめに ボランティア-自らの学びの経験をもとに-
2	豊かに生きていく上で必要なボランティア
3	ボランティアとは何か
4	ボランティアの理解1
5	ボランティア活動の実際
6	ボランティアの理解2
7	ボランティア活動の意味
8	ボランティアのとらえ方1
9	ボランティアのとらえ方2
10	ボランティア活動の課題
11	コーディネーションについて
12	ボランティアコーディネーションの理解
13	ボランティアコーディネーションとボランティアコーディネーター
14	ボランティアセンターとボランティアコーディネーター
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30%)、学修目標に基づく試験(60%)、通常の授業態度(10%) 60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

日本ボランティアコーディネーター協会編『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』筒井書房

科目名	生活とコミュニティ		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

生活とコミュニティ(地域社会)について、生活構造論からアプローチする。そもそも生活とは多義的な概念であるため、生活構造論は多様である。しかしその基本は、個人または家族の生活状況から社会構造を捉え直そうとする、つまり生活者(個人や家族)の主体性に着目している点で共通している。都市化・産業化によって人々の生活水準は向上したが、それは格差社会をつくりだすことにも繋がった。また、生活の質についてはどうであろうか。この科目では、官庁統計や社会調査のデータを用いて、生活者が置かれている生活状況(生活水準、生活時間、生活空間、生活関係)を確認するとともに、地域社会における生活者の主体形成のありかたを考察する。

内容

1	生活構造1:生活構造論とは
2	生活構造2:生活の指標
3	生活水準1:家族周期と家計構造
4	生活水準2:消費行動とライフスタイル
5	生活水準3:階層・階級と格差社会
6	生活時間1:生活時間の構造
7	生活時間2:ワークライフバランス
8	生活空間1:過疎問題
9	生活空間2:開発と住民運動
10	生活空間3:都市問題
11	生活関係1:自治会・町内会
12	生活関係2:社会的ネットワーク
13	生活関係3:ボランティア活動
14	生活関係4:コモンズとまちづくり
15	総括

評価

授業時の課題(40%)と学期末のレポート(60%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

三浦典子、森岡清志、佐々木 衛 編(1986)『生活構造』(リーディングス日本の社会学5)東京大学出版会。

堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著(2008)『地方からの社会学』学文社。

科目名	結婚と家族		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくり、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族形成のあり方、家族の構造と機能について、その基本的な捉え方を学ぶとともに、その今日的な変化を実証的に確認する。

内容

1	家族の捉え方1：家族の定義
2	家族の捉え方2：家族と世帯
3	家族の形態1：核家族
4	家族の形態2：家族の種類と分類
5	家族の形態3：家族構成の変化
6	結婚1：異性交際と配偶者選択
7	結婚2：結婚の意味と機能
8	結婚3：結婚の変化
9	家族の発達1：家族のライフサイクル
10	家族の発達2：ライフサイクルの変化
11	家族の内部構造1：家族の役割構造と勢力構造
12	家族の内部構造2：家族の情緒構造
13	家族の機能1：子どもの社会化
14	家族の機能2：老親扶養
15	総括

評価

学期末のペーパー試験(70%)と授業時の課題(30%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

湯沢雅彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』NHKブックス、2008。

野乃山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009。

佐藤博樹・永井暁子・三輪 哲編『結婚の壁 - 非婚・晩婚の構造』勁草書房、2010。

科目名	家族と法律		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

女性の家庭生活および職業生活に関わる法律を取り扱います。具体的には民法家族法(親族・相続)の基礎を学び、働く女性を取り巻く環境と法律・制度との関わりについて検討することになります。

現代の日本社会においては、個人の価値観が多様化し、それに伴い家族生活も多様化しています。これは夫婦別姓、シングルマザー、離婚の増加に現れている通りです。また、少子高齢化の進行は今までにない新しい家族の問題を生んでいます。子のない夫婦の養子縁組や生殖補助医療で子どもをもつことには、親子についての法的な課題も生じます。認知症で判断力の弱った高齢の親の財産関係については、新しく成年後見制度が設けられました。また、家庭を持ちながら働く上でライフ・ワーク・バランスという考え方も注目されてきています。女性が家庭生活と職業生活を営む上で法律の果たす機能と、課題についても考察します。

この授業では、家族法の基礎知識の習得をし、現代の職業人が家族生活を営む上で課題をめぐる法制度状況について理解を深めることを目的とします。

内容

1	家族問題と法
2	婚姻と法
3	婚姻と財産
4	離婚と法
5	離婚と財産と子ども
6	親子
7	内縁と認知
8	家族法の現代的問題
9	氏と戸籍
10	扶養・成年後見
11	相続 相続人と相続財産
12	相続 法定相続
13	遺言・遺留分
14	働く女性と法
15	総括

評価

提出物・受講態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価します。

100点満点中60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『家族の法[第3版]』 利谷信義 （有斐閣）

【参考図書】 『デイリー六法』（三省堂） その他の六法も可

科目名	キャリア開発と生活プラン		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 社会情報学部現代社会コースの専門科目(2年生以上対象)

2 長期的に仕事とかかわり職業生活を送る女性たちに注目し、結婚や家庭生活と職業生活がどのように変わってきたかをとらえ、生活と職業の変化から自身の将来に向かってのキャリア・ライフプランを作成する。

また、具体的に女性の開発した商品や起業した会社の事例、女性が活躍できる企業を取り上げ、現代の女性たちが仕事と生活の両立をどのようにすすめているかをとらえる。

新聞記事や雑誌、ビデオの利用など、またグループワークなどで多様な学習方法を取り入れる。

内容

1 - 3回 活躍する女性をとらえる

新聞・雑誌記事から女性と仕事の関わりをとらえる

記事をもとにグループワーク、記事をもとにしたレポートの作成

4回 女性たちの進化史

働く女性のあゆみと変化

5 - 7回 ライフサイクルの変化と仕事・生活

20代からはじまる働き方の選択

8 - 10回 仕事と生活の両立を目指す制度を

地域にある子育て支援施設をとらえる

家庭生活・男女の役割の変化

11 - 12回 商品開発と女性の活躍 ・人に注目

13 - 14回 女性の活躍する企業とは ・企業に注目

ウーマノミクスの動き

15回 私のライフキャリアプランに向けて

評価

課題レポート60点、授業への参加度30点、報告10点の合計100点。
60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に紹介する。

科目名	ジェンダーと開発		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は現代社会コースの専門科目

科目の概要

海外の女性の社会的、経済的、政治的状況について学ぶ。

国家発展や開発援助をする際、男性と女性の関係性を無視して行くと成果が上がらない。そのため、男女の関係性に注目しながら開発を考えるジェンダーと開発という考え方が主流になった。また、民間セクターにおいても、女性を活用している企業は業績をあげていることが実証されている。「ジェンダーと開発」を進めるためには、各国における女性の状況をまず知ることが重要である。そのため、各国における女性の状況を労働、教育、暴力、政治参加、高齢者、貧困などの様々な領域でビデオ、ゲスト講師の講義などによりビジュアルに学んでいく。

学修目標

海外の女性の状況を学ぶことで、日本の女性の国際的な社会的・政治的・経済的状況を把握し、日本女性の一人として、今後何をすればよいか考える機会となることが目標

内容

1	ジェンダーと開発を学ぶ目的 国際的な女性の地位の比較、女性の地位向上のための課題
2	国際的な政治参加の状況 女性がなぜ政策決定に少ないか、女性が政治にでるとどう変わるか？
3	女性の人身取引 1 東ヨーロッパの女性 【買われ・売られて】
4	課題1 新聞切り抜きの報告 女性の人身取引 2 【売買される女性たち】
5	世界各地の宗教、文化、風習と女性【女性に対する暴力：文化、風習】
6	ゲスト講師 川崎けい子さんの講義「アフガニスタンの女性と子ども」と質疑
7	課題2 新聞切り抜きの報告 アフガニスタン、イスラム圏の女性の状況について
8	女性に対する暴力 DV、女性差別撤廃条約、女性に対する暴力撤廃デー、FGM
9	女性の識字・教育を考える：男女、都市農村別、宗教による違い【ミーナのえがお】
10	女性と経済：各国における女性・男性の働き方 【女性・男性の働き方】
11	女性と貧困 【貧困の女性化】母子家庭の貧困 女性高齢者の貧困
12	国連安保理決議 1325 紛争解決と平和構築における女性【平和を作る女性たち】
13	女性の地位を測る指標、ジェンダー統計 【自立を目指して】
14	課題の報告 女性と環境、女兒、【女兒・子どもと未来のために】
15	まとめ

評価

試験(60%)、課題提出物の内容(20%)、ワークシートの内容など平常点(20%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：ジョニー・シーガー著、原民子、木村くに子訳『地図で見る世界の女性』明石書店 2005

落合美恵子、山根真理、宮坂靖子『アジアの家族とジェンダー』勁草書房、2007

参考文献：雑誌 季刊『女たちの21世紀』アジア女性資料センター

科目名	北アメリカとヨーロッパ地域研究概論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1・2年生対象の選択必修科目で、国際社会の基礎を学ぶ。

講義の対象となるのは、一般に「西洋」と言われる北米欧地域だが、その地域内でも違いがあり、国々の関係も様々である。最近では、先進国共通の国内社会問題や国際問題への対応で、アメリカとヨーロッパの差が目立つことが多い。授業では特に、これらの社会での政治、経済などの情報の流れに注目し、その特色を考える。それぞれの地域の新聞、テレビ、ネットなどのリアルタイムの情報を紹介しながら、授業を進めていく。

国際理解の基礎知識を身につける。

内容

1	地域研究方法論とコミュニケーション
2	欧米社会(1):人々のつながり
3	欧米社会(2):メディアを通じてのコミュニケーション
4	欧米社会(3):マスメディアの役割
5	欧米社会(4):マスメディア組織
6	世論形成
7	インターネットメディアの発展
8	インターネットメディアの影響力
9	メディアの政治的影響
10	政治参加の方法としてのメディア(1):選挙キャンペーン
11	政治参加の方法としてのメディア(2):政治的動員
12	選挙報道
13	政治コミュニケーションの比較(1):アメリカとヨーロッパ
14	政治コミュニケーションの比較(2):欧米とアジア
15	まとめ

評価

レポート(40%)、試験(60%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】蒲島郁夫他 『メディアと政治』有斐閣アルマ 2007年

【推薦書】遠藤薫 『間メディア社会における世論と選挙』東京電機大学出版局 2011年

【参考書】久保文明他 『新版アメリカ政治』有斐閣アルマ 2010年

科目名	日本とアジアの地域研究概論		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

21世紀に入り、アジアは世界経済の成長センターとしての位置づけが一層明確になった。同時に朝鮮半島の軍事対立と驚異的な経済成長に裏打ちされた中国の存在感は冷戦終結後の国際政治の大きな焦点となっている。アジアに位置する日本は、そうしたアジア各国との緊密な関係強化を抜きにして、国家レベルでも個々の企業レベルでもその将来像を描くことすら出来なくなった。

この授業はアジアを次の3つに大別し、それぞれ19世紀末以降の歴史と現状を分析・検証し、近未来について考えていくものである。なお、この授業は時事解説の側面も持つので、受講生は日々の新聞やテレビの報道に強い関心を持つことを求める。

1) 中国

アヘン戦争から日清・日露戦争、日中戦争から国共内戦、中華人民共和国の建国と大躍進政策の失敗、文化大革命から改革開放経済体制、世界の工場/消費地としての現在まで

2) 朝鮮半島

韓国併合(朝鮮半島の植民地化)と日本敗戦、大韓民国/朝鮮民主主義人民共和国の建国と朝鮮戦争、南北対立と北朝鮮核武装の現在まで

3) 東南アジア

東西冷戦下のドミノ理論とベトナム戦争、開発独裁と地域経済、ASEANとしての地域協力機構の現在まで

内容

- 1) ガイダンス～アジアとは?、“アジアは一つ”か?、アジアの世紀は本当か?
- 2) 欧米列強のアジア進出と日本～大航海時代、アジア植民地化、アヘン戦争
- 3) 明治新政府の対アジア外交～日清露3国の思惑と日清・日露戦争、韓国併合
- 4) 日本のアジア侵略～日中戦争からアジア太平洋戦争、満州国建国と中国残留孤児問題
- 5) 日本敗戦と靖国神社～靖国神社問題と歴史教科書問題
- 6) 中華人民共和国建国～大躍進から文化大革命、中ソ論争、台湾問題(中国代表権問題)
- 7) 朝鮮戦争と日本～日本の“再軍備”と自衛隊、自衛隊任務の変遷
- 8) 東西冷戦とドミノ理論～マッカーシズムと中国封じ込め政策、米ソ英仏中の核開発競争とNPT/IAEA体制
- 9) ベトナム戦争～米ソ代理戦争、日米安保条約/日米同盟の“完成”
- 10) 開発独裁～民主主義より“まずは経済建設”路線、日本のODA戦略
- 11) 米中接近～中ソ対立/ベトナム戦争/ニクソンショックと日中国交正常化
- 12) 中国改革開放経済体制へ～鄧小平路線/世界の工場/光と影、チャイニーズ・ドリーム、G20時代
- 13) 北朝鮮問題～北朝鮮の核武装と東アジアの安全保障、北朝鮮世襲体制の行方、日朝国交正常化問題
- 14) NPT/東アジア共同体構想と障害～尖閣/竹島問題、日中韓歴史認識問題、日米/米中/日中相関関係
- 15) まとめ

評価

ミニテスト（受講生の理解度を見るために、毎回授業終了前に10分程度をかけて行う＝一種のリアクションペーパー）＋
期末試験（またはレポート）で総合評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使わない。資料は随時配布する。参考図書は授業中に紹介する。

科目名	中国・華僑社会の人と文化		
担当教員名	山本 賢二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	現代社会コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

(科目の性格)国際コミュニケーションの中で、中国の発言の比重は以前にも増して大きなものになっている。さらに、日中関係を考えたとき、中国と世界的な広がりをもつ華僑、華人社会を知ることが我々にとって不可欠といえ、本講義はそのための基礎知識を教授する。

(科目の概要)中国理解の第一歩は中国文化を知ることである。中国の文化は権力によってつくられた文化、文人によってつくられた文化、民衆によってつくられた文化の三層からなる。本講義はこの文化の三層に着目すると同時に、その文化を作り出した人とそれをバックボーンとした現代中国の社会環境および中国をめぐる国際環境について概観する。

(学修目標)中国および華僑社会の人と文化を理解するための基礎知識が得られ、中国の存在を客観視できるようになるための基礎を作ることを目標とする。

受講者は(1)教科書、推薦書などを熟読し授業に臨むことが求められる。(2)中国に関係する情報に関心を持ち、メディアから関係情報を得よう努めること。(3)国際関係の中における日中関係の現状理解に努めること。(4)自分の頭で考え、自分の意見をもつこと。

内容

- 1.中国概況
- 2.日本人の中国イメージ
- 3.日中関係の歴史と現状
- 4.世界の華僑・華人・華裔・新移民
- 5.漢字文化
- 6.漢語(普通話・国語・華語)
- 7.伝統文化のメディアとしての太極拳
- 8.陰陽思考
- 9.中国料理
- 10.現代中国の社会階層
- 11.現代中国の社会思潮
- 12.中国の人権観と世界輿論
- 13.中国の海外統一戦線
- 14.黄禍論・中国脅威論
- 15.まとめ

評価

授業において質問に答えたり、積極的に発言などをする(小レポート提出も含む) 授業参与度50%

授業内容を踏まえた「日中のコミュニケーションギャップを解消するための提言」 レポート50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 中嶋嶺雄著 『中国 歴史・社会・国際関係』 中公新書

推薦書 加地伸行著 『現代中国学』 中公新書

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日・70時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9 - 10月に開催される報告会で報告というすべての過程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部メディアコミュニケーション学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込 : 「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導 : 「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

担当教員 : 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例(2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど)

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート(40点)、受け入れ先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)の計100点で

総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日・70時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9 - 10月に開催される報告会で報告というすべての過程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部メディアコミュニケーション学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込 : 「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導 : 「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

担当教員 : 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例(2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど)

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート(40点)、受け入れ先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)の計100点で

総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	角田 真二、橋本 ヒロ子、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアーすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

小テスト(50点)、期末試験(50点)等をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	泉 直子、亀田 温子、阿部 史、角田 真二 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 現在活躍している社会人から話を聴き交流することで、仕事をする女性たちの生き方を学ぶ。同時に、4回のワークショップを通して学生自身がキャリアプランをつくる学習支援を行う授業である。

2、さまざまな分野で活躍するキャリアモデルとなる女性たちの実例に触れながら、仕事をするとはどのようなことなのか、社会とのかかわることの意味や自分の成長や生き方について学ぶ。大学卒業後、スムーズに職業生活をスタートさせるための基盤をつくる。

まず、1・2回はワークショップ形式でキャリア形成の基本となる考え方(興味、能力、価値観にそった仕事選びが充実した職業人生につながる)と各自が抱えている仕事に対するイメージを整理する。

次いで10名の職業人からそれぞれの仕事を持つ魅力について、さらに、自分にとって仕事とは何か、職業観・仕事観についての話を聴く。

最後の13・14回のワークショップでは、社会人講師の話から、職業生活からえられるものは何かを考え、自分自身のキャリアプランにつなげる。最後に、本授業を通じて各自の仕事に対するイメージがどう変化したか確認する。

3・ 社会で活躍する女性の状況をとらえる。

- ・自分自身のキャリアビジョンを描けるようにする

内容

1	ガイダンス、ワークショップ1(仕事に対する自分のイメージを認識する)
2	ワークショップ2(わたしのキャリアの棚御し)
3	野本範子氏(リコージャパン(株))「女性経営職の楽しさと永年勤続の魅力」
4	西井多栄子氏(りそな銀行)
5	畠山一郎氏ほか(広告社)「コミュニケーションをデザインする仕事」
6	好本 恵氏(フリーアナウンサー)「アナウンサーと放送~その仕事の醍醐味」
7	小島直子氏(アパレル関連)
8	菊田あや子氏(フリーアナウンサー)「仕事で人生を切り開く楽しさと充実感教えます」
9	山口美和子氏(プリンスホテル支配人)
10	藤原ゆき氏(富士通、SE)「フィールドSEの日常」
11	山崎菜々美氏(NPOカタリバ)
12	森 美香氏(NPOエンジェル・ケア・ハート)「起業をとおして自己表現」
13	ワークショップ3(自分にとっての仕事について考える)
14	ワークショップ4(仕事についての考え方の変化、キャリアビジョンを描く)
15	まとめ(総括討論)

評価

講師講演ごとに提出するリスト（60点）、ワークショップ4回の課題（30点）、および最終回の全体レポート（10点）の計100点で総合評価する。合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に随時紹介する。

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「キングレコード」プロデュースによる「音楽文化とビジネスの現場」

女性の感性の大切な部分をしめ、学生の音楽とビジネスへの関心がますます高まる今、キングレコードと関係する企業のトップ、幹部、社員から直接、音楽文化とビジネスの魅力、課題を学ぶ。「メディアの中の音楽」、「音楽トレンドと展望」、「キングレコードの歴史～現在」、「アーティスト、クリエイターの視点」、「CD制作現場とプロセス」「音楽企画作成実習」など幅広い学びと、音楽業界で働くことの楽しさ・厳しさを、講義、企画、実習、見学を通して吸収し、キャリアアップにも資する。(授業項目は見学期日等、一部微調整の可能性ある)

内容

1	オリエンテーション、この講座のねらい
2	音楽業界の現状と問題点
3	音楽パッケージビジネスの基本
4	著作権、権利ビジネスについて
5	音楽配信ビジネスに関して
6	キングレコードの歴史～現在
7	レコード会社の職種と求められる人材
8	CD制作現場～プロセス
9	メディアの中の音楽、音楽番組プロデューサーの視点から
10	アーティスト、クリエイタ の視点から
11	音楽トレンド、今後の展望
12	企画書プレゼンテーション等
13	関口台スタジオ見学等
14	キングレコード現場スタッフと交流等
15	キングレコード社長挨拶：まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて紹介する

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、「インターンシップ実習」履修の事前授業である(「インターンシップ実習」を履修する場合は必ず履修すること。社会情報学科生およびコミュニケーション学科生も「インターンシップ」を履修する場合は、必ず履修すること。心理学科生で「インターンシップ」を履修する場合は、可能な限り履修すること)。

科目の概要

企業が求めている人材とは、ビジネスマナー、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識とインターンシップの内容、インターンシップをする際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職活動に直結しないが、インターンシップを経験することで充実した就職活動が可能となる。

内容

1	ガイダンス(講義の進め方の説明、注意事項など)
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員
3	ビジネスマナー講座1 服装、電話の受け方、挨拶、職場での態度など
4	ビジネスマナー講座2 常識
5	企業のインターンシップ1 営業・販売(リコー・丸文堂・丸正飯塚などの担当者+学生)
6	企業のインターンシップ2 外食・食品(ケンタッキー、スカイラーク、佐藤農園など)
7	企業のインターンシップ3 メディア系(トップシーン・つばさエンタテイメント、東急ア)
8	企業のインターンシップ4 情報系(夢科情報、クレッシェンド、東和エンジニアリングなど)
9	企業のインターンシップ5 出版系(NHK出版、あさ出版・埼玉新聞社などの担当者+学生)
10	企業のインターンシップ6 金融・企画系(りそな銀行・東急不動産などの担当者+学生)
11	自治体のインターンシップ(和光市役所、志木市役所、新座市役所、朝霞等の担当者+学生)
12	グループによる業界研究及び報告1
13	グループによる業界研究及び報告2
14	自分の適性を知り、自己PRを作成する
15	自己PRを1分間で発表、まとめ、授業評価

評価

レポートの内容(60%)、グループワークやその報告の内容(20%)、授業態度(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度、提示する。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。インターンシップを履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

5日・35時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9-10月に開催される報告会で報告というすべての課程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。

学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

参加学生は、実習・研修の成果をまとめたレポートを作成しキャリアセンターに提出する。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

報告会への参加：キャリアセンターが実施する報告会で報告

3. 実施例(2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど)

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

評価は可・不可。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。インターンシップを履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

5日・35時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9-10月に開催される報告会で報告というすべての課程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。

学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

参加学生は、実習・研修の成果をまとめたレポートを作成しキャリアセンターに提出する。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

報告会への参加：キャリアセンターが実施する報告会で報告

3. 実施例(2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど)

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

評価は可・不可。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する。

科目名	原典講読		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

平常点、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	原典講読		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

平常点、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	原典講読		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の概要:

国連女性差別撤廃条約をわかりやすい英語にしたMother tells about the Women's Convention及びStudent Timesで辞書なしで読める記事などの中から学生の関心の持てそうなものを選んで講読する。

学習目標:

ジェンダーの問題について理解を深めるとともに、英語の力をあげることも目標にしている。

内容

毎回全員にあてるため、準備がかなり必要になるが、英語の理解力、語彙力などの向上が見られる。

1. 講読文献(Mother tells about the Women's Convention)およびStudent Times記事、国連や国際的なNGO団体からネットで配信される情報も教材で取り上げる
2. 上記を毎週講読[第2回から第14回まで]
3. 第15回は全体の振り返りと評価

評価

毎回の準備状況、報告内容

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「Mother tells about the Women's Convention」北九州男女共同参画センター発行、「Student Times」の記事,ネットで配信される国連及び国際NGOからの情報

科目名	原典講読		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年演習に並行して開講し、演習や卒業研究で学生が研究するテーマ、分析方法を選択するのに参考になる文献を読んでいく。

文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学など広く社会科学の分野から選び、同時に社会科学方法論についても読んでいく。外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

演習、卒業研究の対象分野である環境、国際関係についての基礎知識を学び、4年卒業研究での議論の基盤としての共通認識を養う。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

討論への参加(25%)、レポート(75%)で評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	原典講読		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「現代社会コース演習」担当教員が、それぞれの専門分野の基本的文献を選び、学生と共に読み解いていく。文献は、歴史学、法律学、政治学、社会学、ジェンダー論等、広く社会科学の分野から選ばれる。また、外国語文献の場合は、翻訳ではなく原語で講読することもある。

内容

1. 基本的文献の紹介
2. 講読文献の意義
3. 講読
4. レポート発表

評価

平常点、レポート、試験、その他

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示する

科目名	演習		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

3年ゼミの前期科目

科目の概要

テーマは「ワークライフバランスをめざす」及び「女性と災害復興」

21世紀の日本社会は、女性の時代と言われている。そのため、これまでのような「男はしごと、女は家庭」という性別役割分担ではなく、一人一人の男女が仕事も子育ても楽しめるワークライフバランスが可能な社会づくりが急務となっている。とりわけ、日本社会は少子化が急激に進み、女性が仕事だけでなく、子育てもできるような社会のシステム作りが急務となっている。

2011年3.11の東日本大震災の復興に女性たちの視点をどう入れ女性たちが参画するか重要な課題となっている。女性が参画することでどのように変わったかについても実態を把握する。

学修目標

橋本ゼミでは、ワークライフバランスについて研究、将来の自分の人生設計をすることに加えて、社会に出て通用する基本的な知恵と知識・技術を持ち、自立した女性として育つことを目標とする。さらに、災害復興に女性の視点を入れ、女性が積極的に参加することが、復興をどのように変えていくかを学ぶ。毎週1回のゼミだけでなく、学外活動、ゼミ合宿、学園祭、ゼミ論作成、卒論作成などのゼミ活動を通して充実した大学時代とする。

内容

以下のような内容を前期の15週及び夏休みに行う

- 1.ワークライフバランスに関する国際的な動向
- 2.ワークライフバランスに関する基本的な文献購読
- 3.女性と災害、災害復興について文献購読
- 4.文献・情報の探し方
- 5.ゼミ論の書き方について
- 6.論文の評価法
- 7.ワークライフバランスなどに関するテーマについてデバートの練習
- 8.テーマの設定方法、
- 9.裁判・国会の傍聴、国際セミナーへの参加など

夏休み合宿(国立女性教育会館)

- 1.資料・データの検索
- 2.資料の読み取り

または、被災地でボランティア活動

評価

ゼミでの発表内容(20%)、ゼミでの議論への貢献(20%)、ゼミ論の内容(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：佐藤博樹、武石恵美子『ワークライフバランスと働き方改革』勁草書房 2011

参考書：『男たちのワーク・ライフ・バランス』 ヒューマンルネッサンス研究所 2008

それ以外にも教員が授業のつど、紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 3年次学習の必修科目

2 ねらい・目標

演習 (3年前期)では、女性の職業進出と企業社会の変化にかかわることをテーマに、基礎文献を読み、発表し、基礎力形成を行う。

この学習を基本に、後期には卒論のテーマ設定につなげる。

内容

1回 オリエンテーション : 3・4年時のゼミ活動について

卒業研究に向けての学習方法

学習課題、グループ学習について

2回 ゼミの学習方法: レジюме作成、発表方法、議論について

3 - 5回 基本テキスト購読 ・

発表報告、それに基づく意見交換、議論

6 - 8回 新聞、雑誌記事検索など情報収集

9 - 10回 関連テーマのデータ収集、文献リスト作成

11 - 13回 基本テキスト購読

14回 基本学習にもとづく報告・プレゼン

15回 まとめ

評価

発表・資料作成60点、討議への参加30点、受講態度10点により 合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時テーマごとに紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次演習として、卒業論文執筆の準備を行う。

この演習では、環境問題と国際社会の両方、あるいは、どちらか一方に関連したテーマを取り上げる。グローバル化が進む中、身近な生活環境問題も地球環境問題との関係抜きでは議論できず、国際社会の出来事と日本国内の動きも密接な関係を持つようになってきた。どちらに関連するテーマでも、地域社会、国、国際社会などのレベルでの動きを検討し、個々の問題の特徴を捉えていく。個人のレベルでの行動が国や国際社会レベルの問題にどのように関連しているか、現代社会の問題を体系的に捉える視点を重視したい。

テーマ設定と同時に、問題設定から調査法、結果のまとめ方など、レポート、論文の書き方の基本について学ぶ。

内容

第1回～第5回：基本的文献についての討論

第6回～第10回：参考文献、情報の収集方法

第11回～第13回：論文のまとめ方(ゼミ・レポート執筆)

第14回：ゼミ・レポート提出

第15回：レポート講評

評価

発表、討論への参加(30%)、レポート(70%)で総合的に評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】三浦栄光『国際関係のなかの環境問題』有信堂 2004年 519.1/K

【参考書】大澤真幸、姜尚中(編)『ナショナリズム論・入門』有斐閣アルマ、2009年

加藤陽子 『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社、2009年

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会学の中でも実証研究によって成果をあげてきた家族社会学の研究法を習得する。この演習 では、家族社会学の研究領域を広く学び、演習 に向けて、参加学生の自らの関心領域を明らかにする。

内容

家族を扱った社会学の学術図書を読み込み、その内容についてディスカッションすることで、各自の卒業研究のテーマを模索する。毎時間テキストの一章分を取り上げ、数人のレポーターが内容を報告し、参考文献に照らしてコメントする。レポーター以外の者は問題点を指摘し、討論に参加する。なお、テキストは参加学生の問題関心にもとづいて決める。

また、夏季休暇中、合宿にて視察研修を実施する。視察研修内容は、参加学生自ら企画する。これまでに実施した事例には、韓国ソウル市内にて東国大学日本語専攻女子学生との交流、沖縄の伝統文化とリゾート開発、飛騨高山合掌集落における大家族制、北海道における移住促進事業、横浜市のまちづくりとボランティア活動などがある。

評価

授業中の発表や討議(50%)と学期末のレポート(50%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】野乃山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009年。

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会のいろいろな問題を考えていくには様々な視点と方法がある。この授業では具体的な対象をデータや論理によって判断していく力を身につけることをねらいとしたい。たとえば、政府の政策の目的は何であり、それに対しどのように具体的政策が取られ、どのような結果・効果を生じているか、それは適切なのか、など。

内容

- ・現在起こっている諸問題の理解 - 資料などを提示しそれをもとに検討する、自分で調べまとめ発表する、議論の仕方などを勉強する。
- ・ゼミ論 - 自分でテーマを設定しレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。その中から文章を作成していく。
- ・時事問題 - 各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・ディベート - 効果的な議論の仕方を学ぶ。

評価

平常点(40%)とゼミでの発表・提出物(60%)の総合評価による

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

山田昌弘「新平等社会」文春文庫

沢木耕太郎「旅する力」新潮文庫

科目名	演習		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

3年ゼミの後期科目

科目の概要

テーマは「ワークライフバランスをめざす」及び「女性と災害復興」

21世紀の日本社会は、女性の時代と言われている。そのため、これまでのような「男はしごと、女は家庭」という性別役割分担ではなく、一人一人の男女が仕事も子育ても楽しめるワークライフバランスが可能な社会づくりが急務となっている。とりわけ、日本社会は少子化が急激に進み、女性が仕事だけでなく、子育てもできるような社会のシステム作りが急務となっている。

後期は、ゼミ生が関心を持つ様々なテーマに関する図書資料を読み報告し、場合によったら調査をしてゼミ論をまとめる。

学修目標

橋本ゼミでは、ワークライフバランスについて研究、将来の自分の人生設計をすることに加えて、社会に出て通用する基本的な知恵と知識・技術を持ち、自立した女性として育つことを目標とする。毎週1回のゼミだけでなく、学外活動、ゼミ合宿、学園祭、ゼミ論作成、卒論作成などのゼミ活動を通して充実した大学時代とする。3年後期は、ゼミ論をまとめることで、文献分析、論文の書き方など習得する。

内容

夏休みゼミ合宿(国立女性教育会館)または東北被災地でのボランティア合宿

- 1.資料・データの検索
- 2.資料の読み取り
- 3.ゼミ論テーマの決定

後期 ゼミ合宿の成果を踏まえ、以下を15週で行う

- 1.調査等によるデータ収集が必要な場合は調査の実施
- 2.開発途上国、特にネパールの女性教育について
- 3.第1次章稿のまとめ・パワーポイントによる発表(一回3人)・討論・講評
- 4.第2次章稿のまとめ・発表(同上)
- 5.最終論文の作成・提出(15000-20000字 図表等も含む)

学園祭でのイベント「国際協カラーメン」店 企画・実施 女性起業の実地体験。売り上げの一部をネパール女性教育協会に寄付して、ネパールの師範学校在学女子学生の奨学金の一部とする。志木市など地域の男女共同参画行政との連携事業の実施

評価

ゼミでの発表内容(20%)、ゼミでの議論への貢献(20%)、ゼミ論の内容(60%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：佐藤博樹、武石美恵子『ワークライフバランスと働き方の改革』勁草書房 2011

参考書：『男たちのワーク・ライフ・バランス』 ヒューマンルネッサンス研究所 2008

その他、学生のゼミ論のテーマに応じそのつど提示する。

科目名	演習		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 3年時の必修科目

- 2 ・前期の演習 の基礎学習をもとに、各自関心をもつテーマを設定し、社会事象をとらえる方法について学ぶ。
- ・卒論作成に向けて、テーマ設定を行い、関連資料の収集を行う。
- ・試論として卒論にむけたゼミ論レポートを作成。

内容

1回：前期の「演習」を振り返る。

2 - 3回 テーマ構想の発表、それに関する討議

4 - 5回 テーマに沿った基本文献の検索
アプローチの方法、内容の検討（基本レポートの作成）

6 - 8回 基本レポート1 の発表、検討

9 - 11回 テーマについての再検討・拡大検討（ゼミ論レポート作成）

12回 4年生徒の卒論交流会

13 - 15回 卒業研修試論としてゼミ論レポートの報告会

評価

テーマ設定・レポート作成が60点、授業への参加度30点、授業態度が10点、合計100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に内容、テーマにあわせて紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 に続けて履修し、卒業研究の準備を行う。

環境問題と国際社会の両方、あるいは、どちらか一方に関連したテーマを取り上げて話し合い、個々に論文のテーマになりそうな分野を絞り始める。それぞれのテーマについてさらに話し合い、卒業論文につながる研究、調査の計画を立てていく。個々のテーマ、調査法について互いに意見を述べ合う機会を重視して、議論中心に演習を進める。

学期末に発表する論文を、卒業研究の第1段階と位置づけられるものとする。要望があれば、学園祭等でそれまでの調査結果を発表することも支援する。

内容

第1回～第4回：後期ゼミ・レポートのテーマ選択、問題提起

第5回：テーマ発表

第6回～第13回：リサーチの経過報告・卒論への展開

第14回：レポート体裁確認・提出

第15回：レポートの最終発表

評価

発表・討論への参加(30%)レポート(70%)で総合的に評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】小笠原喜康 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社現代新書 2002年

【参考図書】戸田山和久 『論文の教室 - レポートから卒論まで』 NHKブックス 2002年

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次前期の演習 に続けて、社会学の中でも実証研究によって成果をあげてきた家族社会学について、より研究を深める。4年次に仕上げる卒業研究のテーマを絞り、そのテーマに関する先行研究と既存資料を整理する。

内容

1. 家族社会学や社会学の学会誌、例えば、『家族社会学研究』、『家族問題研究』、『社会学評論』などから、各自の関心あるテーマの研究論文を探し、論文一覧を作成し、それぞれの論文を要約する。
2. インターネットを使って、総務省統計局や厚生労働省の官庁統計のうち、それぞれの関心領域のデータについて検索し、整理する。
3. 情報資料センター所蔵の『朝日新聞データベース』を使って、各自の関心テーマに関連する過去の新聞記事を検索し、記事一覧を作成し、それぞれの記事を要約する。
4. 東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターのデータアーカイブに提供されている個票データを使って、各自の関心テーマに関連した量的調査のデータを統計分析する。

評価

授業中の発表や討議(40%)と学期末のレポート(60%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書と推薦書は、参加学生の関心に照らして、授業時に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会のいろいろな問題を考えていくには様々な視点と方法がある。この授業では具体的な対象をデータや論理によって判断していく力を身につけることをねらいとしたい。

内容

- ・現在起こっている諸問題の理解 - 資料などを提示しそれをもとに検討する、自分で調べまとめ発表する、議論の仕方などを勉強する。
- ・ゼミ論 - 自分でテーマを設定しレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。その中から文章を作成していく。
- ・時事問題 - 各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・ディベート - 効果的な議論の仕方を学ぶ。

評価

平常点(40%)とゼミでの発表・提出物(60%)の総合評価による。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮文庫

科目名	卒業研究		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

後期の卒業研究 とともに、卒業に必要な卒業研究を完成させる。

科目の概要

日本及び諸外国における政治・社会・経済・文化などの諸問題について、ジェンダーの視点で分析した卒業論文を完成させる。4年の夏休みの終わりまでに第1次草稿、12月中旬の卒論締め切りまでに最終論文を提出。橋本ヒロ子ゼミでは、文献やネット情報だけでなく、実際にアンケート調査や現地調査などを実施して独自性のあるテーマによる論文を仕上げることを重視。

学修目標

テーマについて分析の仕方、調査方法を身につけ、論文の書き方について習熟する。当該テーマについて、説得性のある独自の視点を打ち立てる。

内容

03年度生以降の卒論テーマは以下の通り。

03年度生：街のバリアフリー～駅のバリアフリー化／女性のパートタイム労働：管理職や専門職への登用／メディアにおけるスポーツ女性の表現／女性管理職企業の取り組みと今後のあり方／魔女狩りの歴史 現代の魔女狩りとは／女子学生のファッションの現状と課題／児童文学に描かれた家族像／ダイエットと摂食障害／大卒女性のライフコース／CMのジェンダー分析／夫婦選択別姓

04年度生：仕事と育児によって男女間で格差が生まれてしまうのは何故なのか：家庭生活の側面から分析／アジアにおける人身売買犠牲者のエイズ問題について／キャンパス・セクシュアル・ハラスメント～現状と大学の課題～／子どもに対する性暴力の実態と対策／子どもの孤食～なぜ、一人で食べるのか～／フェアトレードの課題：有機コーヒーに焦点をあてて／国際結婚カップルの子育てにみるエスニシティ - 中国人女性と韓国人女性の比較調査より -

05年度生：子育てとジェンダー～男性が子育てに参加できる社会とは～／メディアとジェンダー～テレビアニメを中心として～／Comparative Study on Primary School Children in Jap

an and Canada/女人禁制の歴史と現状 - 大峰山に焦点を当てて - /遊郭と呼ばれた花街島原～女性による文化継承～/現代中国女性の労働意識 専業主婦の出現と今後の動向/中国人の観光旅行に関する一考察/中国における一人っ子政策/ホスピタリティについて～ホテルのサービスに焦点を当てて～/ピンクリボン運動の現状と課題

06年度生：江戸時代庶民の子育てと学び／音楽療法による効果に関する一考察／中国における日本企業の社会的責任／未来の女子大学が果たす役割／宮崎アニメの世界と現代の環境と女性の比較

07年度生：若い女性とうつ病～実態と解決策を考える／沖縄県における地域子育て支援と出生率の関係についての研究／韓国ドラマおよび音楽が日本に与える影響／南部アフリカ諸国においてH I V / エイズが女性に及ぼす影響について／宝塚歌劇団と女性～ジェンダーの視点から～／選択性夫婦別姓制度～世論調査で反対派が多い原因を探る～／ワーキングマザー～かかえる問題と行政などによる保育支援～

08年度生：今後のより良い日中関係に向けて／女性お笑い芸人とジェンダー／ストリートチルドレン／放射能汚染の女性と子どもへの影響／裁判員導入制度による判決への影響／性同一性障害－FtoMとMtoF野受け入れられ方の違い／高齢者虐待とジェンダー／「こうのとりのゆりかご」から考える女性問題

評価

論文の内容（75%）、ゼミ活動への貢献（25%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書：各自の卒論テーマごとに指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、3年次の「演習・」及び「原典購読」で学んだ環境問題と国際社会についての知識をさらに発展させ、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。単なる情報収集の段階から、集めた情報の体系的整理・分類と分析へ進み、分析結果の社会的及び学問的意義の検証の段階へと発展させていく。

これまでの卒業論文のテーマ

「地球環境と森林伐採」、「リサイクル社会を目指して」、「食と地球環境問題」、「エコロジー流行の実態」、「企業の社会的責任」、「自然と共存する経済」、「異文化理解と教育」、「世界の貧困問題」、「イラク戦争開戦の背景」、「小国の独立 - 少数民族の民族意識」など。

内容

第1回～第5回：個々のテーマ選択、問題提起

第6回～第11回：テーマに関する情報収集

第12回～第14回：テーマ発表会用のプレゼンテーション準備

第15回：テーマ発表会

評価

発表・討論への参加(25%)、中間報告(75%)で総合的に評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会学の中でも、実証研究によって成果をあげてきた家族社会学の研究方法によって、個々の学生の卒業研究を進める。演習、演習、原典購読を通じて絞られた個々の研究テーマについて、実証データを収集して、分析を進める。

内容

参加学生個々の研究テーマに応じて、以下の作業を進める。授業時には、それぞれが中間報告し、討論することで、解釈を深める。

1. 先行研究を収集・整理・分析する。
2. 官庁統計などの既存統計を収集・整理・分析する。
3. 社会調査(事例調査または統計調査)を計画・実施する。
4. 卒業論文(本文14,000字から20,000字)の構成を決定する。

なお、近年の卒業論文のテーマは、以下のとおりである。

- 「一人っ子をめぐる言説とその検証」
- 「栃木弁の使用についての世代間ギャップ」
- 「介護職員の待遇に関する比較研究」
- 「アメリカ人から見た日本人像 - Newsweek掲載記事の分析から - 」
- 「墓の継承とジェンダー」
- 「日本における老舗の存続戦略 - 中国での応用可能性を問う - 」
- 「未婚男女が結婚相手に求める条件 - 『婚活』ブームと未婚晩婚化 - 」
- 「保育所入所待機児童の地域格差についての研究 - 川崎市と魚沼市の地域子育て自主サークルの比較調査より - 」
- 「ペットのしつけとその意味 - 犬の飼育の場合より - 」

評価

授業中の発表や討議(50%)と学期末の卒業研究中間報告(50%)によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生個々の研究テーマに応じて、推薦書を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする。

内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

- ・卒業論文(80%)、卒業論文の発表と平常点(20%)の総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書

科目名	卒業研究		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

前期の卒業研究 に引き続き、卒業に必要な卒業研究を完成させる。

科目の概要

日本及び諸外国における政治・社会・経済・文化などの諸問題について、ジェンダーの視点で分析した卒業論文を完成させる。4年の夏休みの終わりまでに第1次草稿を書きあげ、12月中旬の卒論締め切りまでに最終論文を提出。橋本ヒロ子ゼミでは、文献やネット情報だけでなく、実際にアンケート調査や現地調査などを実施して独自性のあるテーマによる論文を仕上げることを重視。

学修目標

テーマについて分析の仕方、調査方法を身につけ、論文の書き方について習熟する。当該テーマについて、説得性のある独自の視点を打ち立てる。

内容

03年度生以降の卒論テーマは以下の通り。

03年度生：街のバリアフリー～駅のバリアフリー化/女性のパートタイム労働：管理職や専門職への登用/メディアにおけるスポーツ女性の表現/女性管理職企業の取り組みと今後のあり方/魔女狩りの歴史 現代の魔女狩りとは/女子学生のファッションの現状と課題/児童文学に描かれた家族像/ダイエットと摂食障害/大卒女性のライフコース/CMのジェンダー分析/夫婦選択別姓

04年度生：仕事と育児によって男女間で格差が生まれてしまうのは何故なのか：家庭生活の側面から分析/アジアにおける人身売買犠牲者のエイズ問題について/キャンパス・セクシュアル・ハラスメント～現状と大学の課題～/子どもに対する性暴力の実態と対策/子どもの孤食～なぜ、一人で食べるのか～/フェアトレードの課題：有機コーヒーに焦点をあてて/国際結婚カップルの子育てにみるエスニシティ - 中国人女性と韓国人女性の比較調査より -

05年度生：子育てとジェンダー～男性が子育てに参加できる社会とは～/メディアとジェンダー～テレビアニメを中心として～/Comparative Study on Primary School Children in Jap

an and Canada/女人禁制の歴史と現状 - 大峰山に焦点を当てて - /遊郭と呼ばれた花街島原～女性による文化継承～/現代中国女性の労働意識 専業主婦の出現と今後の動向/中国人の観光旅行に関する一考察/中国における一人っ子政策/ホスピタリティについて～ホテルのサービスに焦点を当てて～/ピンクリボン運動の現状と課題

06年度生：江戸時代庶民の子育てと学び/音楽療法による効果に関する一考察/中国における日本企業の社会的責任/未来の女子大学が果たす役割/宮崎アニメの世界と現代の環境と女性の比較

07年度生：若い女性とうつ病～実態と解決策を考える/沖縄県における地域子育て支援と出生率の関係についての研究/韓国ドラマおよび音楽が日本に与える影響/南部アフリカ諸国においてH I V /エイズが女性に及ぼす影響について/宝塚歌劇団と女性～ジェンダーの視点から～/選択性夫婦別姓制度～世論調査で反対派が多い原因を探る～/ワーキングマザー～かかえる問題と行政などによる保育支援～

08年度生：今後のより良い日中関係に向けて／女性お笑い芸人とジェンダー／ストリートチルドレン／放射能汚染の女性と子どもへの影響／裁判員導入制度による判決への影響／性同一性障害－FtoMとMtoF野受け入れられ方の違い／高齢者虐待とジェンダー／「こうのとりのゆりかご」から考える女性問題

評価

論文の内容（75%）、ゼミ活動への貢献（25%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書：各自の卒論テーマごとに指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究 に続けて、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。集めた情報の体系的整理・分類と分析に重点を置き、分析結果の社会的及び学問的意義の検証を行う。研究の中間報告では、互いに、発表者の論文を読者として読み、理解しにくい点を指摘し、改善のための議論を行う。その議論を通じて、明確な論理と文章を備えた、わかりやすい論文作成につなげたい。

内容

第1 回～第5 回：リサーチの経過報告

第6 回：テーマの最終決定

第7 回～第11 回：リサーチ及び卒論執筆

第12 回～第14 回：論文体裁の最終確認

第15 回：卒論発表会

評価

発表・討論への参加(25%)、卒業論文(75%)で総合的に評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年次前期の卒業研究 において準備してきた卒業研究を、理論性を持ち、かつ、独創性を具えた研究論文としてまとめ、大学4年間の履修上の総仕上げをする。

内容

卒業研究は、以下の手順によって進められる。参加学生は、各自、卒業研究を中間報告し、討論によって研究内容を深める。担当教員は、個々の研究課題に対して理論や接近法を助言するとともに、研究論文の執筆について技術指導する。

1.研究テーマの設定

なぜ、その研究に着手することにしたのか、着想に至った経緯などを整理し、何をどこまで明らかにするのか、研究の目的を明確にする。

2.先行研究の検討

すでに明らかになっていることを整理・検討し、まだ明らかにされていない、研究が着手されていない、残されている課題を把握する。

3.独自性・独創性のある理論の展開

文献資料や社会調査によって、データを収集・整理し、それを分析することで明らかにされた新たな知見を論理的に提示する。

4.今後の課題

研究によって明らかになったことをまとめ、さらに、扱いきれなかった、残された課題を把握する。

評価

授業時の研究発表と討論(20%)、卒業論文(60%)、口頭での研究報告(20%)によって総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生個々について、それぞれの卒業研究に合わせて推薦書を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-現代社会コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、
情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする。

内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

- ・卒業論文(80%)、卒業論文の発表と平常点(20%)の総合評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

白井利明・高橋一郎「よくわかる卒業論文の書き方」ミネルヴァ書房